

松戸市立博物館年報

第23号 - 平成27年度 (2015)



松戸市立博物館
MATSUDO MUSEUM

はじめに

平成27年度の当館の活動についてご報告させていただきます。

まず、展覧会ですが、春には館蔵資料展「シルクロードとガンダーラ」を開催いたしました。当館の大事なコレクションですが、常設では展示しておりません。久々のまとまった展示となりました。

夏には館蔵資料展「松戸市平和祈念展」を開催いたしました。戦後70年の節目にあたり、あらためて平和の尊さを感じて頂きました。

当館では数年ごとに美術館準備室担当の展覧会を開催しておりますが、今年度の秋は、「よみがえる画家 板倉鼎・須美子展」を開催いたしました。松戸ゆかりの洋画家・板倉夫妻の画業を多数の作品で紹介し、松戸にこんなすばらしい画家がいたのかと来場者の驚きと感動を誘いました。

冬は、恒例となった、学習資料展「昔のくらし探検」です。市内のみならず市外からも多数の小学生がみえて、熱心に勉強していました。

また、新しい企画として、ミニ写真展、松戸市展選抜展、松戸市展受賞者展、松戸市小中学生優秀作品展などを開催しました。今後も新しい企画を考えていきたいと思っております。

資料の収集では、倉内純子様、三木一郎様、渋谷文雄様から貴重な資料をご寄贈いただきました。ご厚意に感謝致しますとともに、末永く保存し、市民の皆様に公開していきたいと存じます。また、松戸の中世を語る上に欠かせない文書群を購入いたしました。博物館の展示を充実させることが出来る資料として活用していきたいと存じます。

日頃から「博物館友の会」をはじめ、多くの皆様のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。市民の皆様に愛される博物館を目指して努力する所存ですので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成28年 8月31日

松戸市立博物館

I	沿革	3
II	施設の概要	5
III	事業の概要	6
	1 常設展示	
	(1)総合展示	
	(2)主題展示	
	(3)野外展示	
	(4)映像展示	
	2 資料・企画展示	9
	(1)館蔵資料展「シルクロードとガンダーラ」	
	(2)館蔵資料展「松戸市平和祈念展」	
	(3)「よみがえる画家 板倉鼎・須美子展」(美術館準備室担当)	
	(4)学習資料展「昔のくらし探検」	
	(5)ミニ写真展	
	(6)第50回記念第1回松戸市展選抜展	
	(7)第50回記念松戸市展受賞者展	
	(8)松戸市小中学生優秀作品展	
	3 学習支援	22
	(1)講演会	
	(2)講座	
	(3)体験学習	
	(4)ミュージアムシアター・プレイルーム	
	(5)館内公開	
	(6)ガイドツアー(常設展示解説)	
	(7)情報提供	
	(8)博物館実習	
	(9)教員・生徒の職場勤労体験の受け入れ	
	4 調査・研究	39
	(1)研究員の活動	
	(2)学芸員の活動	
	5 資料の収集と利用	43
	(1)資料の収集	
	(2)博物館資料の貸出	
	(3)博物館資料の特別利用	
	(4)資料の燻蒸等	
	6 平成27年度常設展示・企画展示等アンケート結果	46
	(1)平成27年度常設展示	
	(2)館蔵資料展「シルクロードとガンダーラ」	
	(3)館蔵資料展「松戸市平和祈念展」	
	(4)学習資料展「昔のくらし探検」	
IV	組織と運営	50
	1 組織	
	2 歳出予算	
	3 事務事業	
	4 各種委員会等	
	5 博物館利用者数の統計	
	6 来訪者	
V	条例・規則	55
	職員名簿	64

I 沿 革

月 日	事 項
昭和39年12月	松戸市公民館に郷土資料室設置(50㎡)
昭和46年4月	(助)松戸市開発協会内に移転、松戸市郷土資料館となる。(227.47㎡)
昭和49年11月	松戸市文化ホール内に移転、郷土資料コーナーとなる。(330㎡)
昭和56年3月	松戸市文化ホールが博物館相当施設となる。 松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想調査会条例制定
5月	松戸市美術館構想調査会発足[委員7名]
昭和58年8月	松戸市美術館構想調査会、松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想について答申(18回開催)
昭和59年4月	社会教育部内に美術館準備室設置
6月	松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)建設調査会発足[委員10名]
11月	松戸市美術館建設調査会、美術館について答申
昭和60年3月	松戸市美術館建設調査会、郷土資料館・古文書館について答申(7回開催)
昭和63年9月	市議会に文化施設建設対策特別委員会設置[委員15名]
10月	第4次総合5ヶ年計画で郷土博物館(仮称)建設決定 美術館準備室に博物館担当学芸員を配属
11月	松戸市立郷土博物館展示検討委員会発足[委員10名]
12月	建設用地を総合公園「21世紀の森と広場」内と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会発足[委員8名]
平成元年3月	文化施設建設対策特別委員会において建築設計事務所選定方式をプロポーザル方式と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会において展示の基本構想を決定
4月	文化施設建設対策特別委員会において展示設計業者選定方式を特命方式と決定
8月	総合公園「21世紀の森と広場」内に建設位置決定
11月	松戸市立郷土博物館建築設計事務所選定委員会発足[委員8名] 展示基本設計を(株)乃村工藝社に委託
12月	建築設計事務所を(株)佐藤総合計画に決定
平成2年2月	建築基本設計を(株)佐藤総合計画に委託
3月	建築実施設計を(株)佐藤総合計画に委託
6月	展示実施設計を(株)乃村工藝社に委託
9月	博物館本体工事を大成・海老澤共同企業体と契約 博物館新築工事着手
平成3年9月	展示工事及び展示物製作を(株)乃村工藝社に委託、工事・製作着手
平成4年1月	外構工事着手
3月	植栽工事着手
4月	美術館準備室から分かれ、博物館開設室設置
6月	建築工事、外構工事竣工
7月	野外展示工事着手、植栽工事竣工
9月	松戸市立博物館条例制定(館名「松戸市立博物館」に決定)

12月	野外展示工事竣工
平成5年1月	展示工事竣工
3月	松戸市立博物館管理運営規則制定
4月	松戸市立博物館開館(29日) 初代岩崎卓也館長就任
10月	松戸市立博物館協議会発足[委員10名]
平成6年4月	機構改革にともない市立図書館より市史編さん係を移管
6月	館蔵「幸田貝塚出土品」266点 国重要文化財指定(28日付)
平成7年6月	博物館登録 千葉県教育委員会 平成7年6月9日 登録番号第30号 博物館資料数 4,385点 <ul style="list-style-type: none"> (歴史資料 1,686点 考古資料 2,650点 民俗資料 49点
平成8年10月	博物館等資料選定評価委員会発足[委員5名]
平成9年3月	博物館開館5周年記念特別展示(期間:3月20日から5月11日まで) 「シルクロードとガンダーラ」展を実施
平成10年4月	博物館事業として「自然史」を加える。(松戸市立博物館条例改正) 機構改革にともない市史編さん係を廃し庶務係に吸収する。
平成13年10月	観覧料に「共通観覧料」を設ける。(松戸市立博物館条例改正)
平成14年6月	松戸市立博物館友の会発足(16日)
平成15年10月	松戸市制施行60周年記念・松戸市立博物館開館10周年記念特別展示(期間:10月11日から11月30日まで)「川の道 江戸川」展を実施
平成18年10月	松戸市根本内歴史公園開園記念 企画展「戦国の城をさぐる」実施(期間:10月7日から11月26日まで)
平成19年12月	松戸市立博物館友の会設立5周年活動記録「5年のあゆみ」刊行
平成20年3月	初代岩崎卓也館長退任
4月	2代関根孝夫館長就任 組織改革により、係制を廃止 ハイビジョンシアターをミュージアムシアターに改称
10月	松戸市立博物館開館15周年記念特別展示(期間:10月11日から12月7日まで) 「縄文時代の東・西」展を実施
平成21年5月	市史編さん委員会に、原始・古代及び中世各部会を設置し、松戸市史上巻改訂事業に本格的に着手。
平成23年3月	東日本大震災発生(11日)
4月	観覧料「中学生以下は無料」となる。(松戸市立博物館条例改正)
平成24年3月	2代関根孝夫館長退任
4月	3代望月幹夫館長就任
平成25年10月	松戸市制施行70周年記念・松戸市立博物館開館20周年記念特別展示(期間:10月5日から11月24日まで)「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」展を実施
平成26年12月	「松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱」を条例化し、「松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置条例」を制定(平成27年4月1日施行)
平成27年2月	『松戸市史 上巻(改訂版) 原始・古代・中世』を刊行

Ⅱ 施設の概要

建築の概要

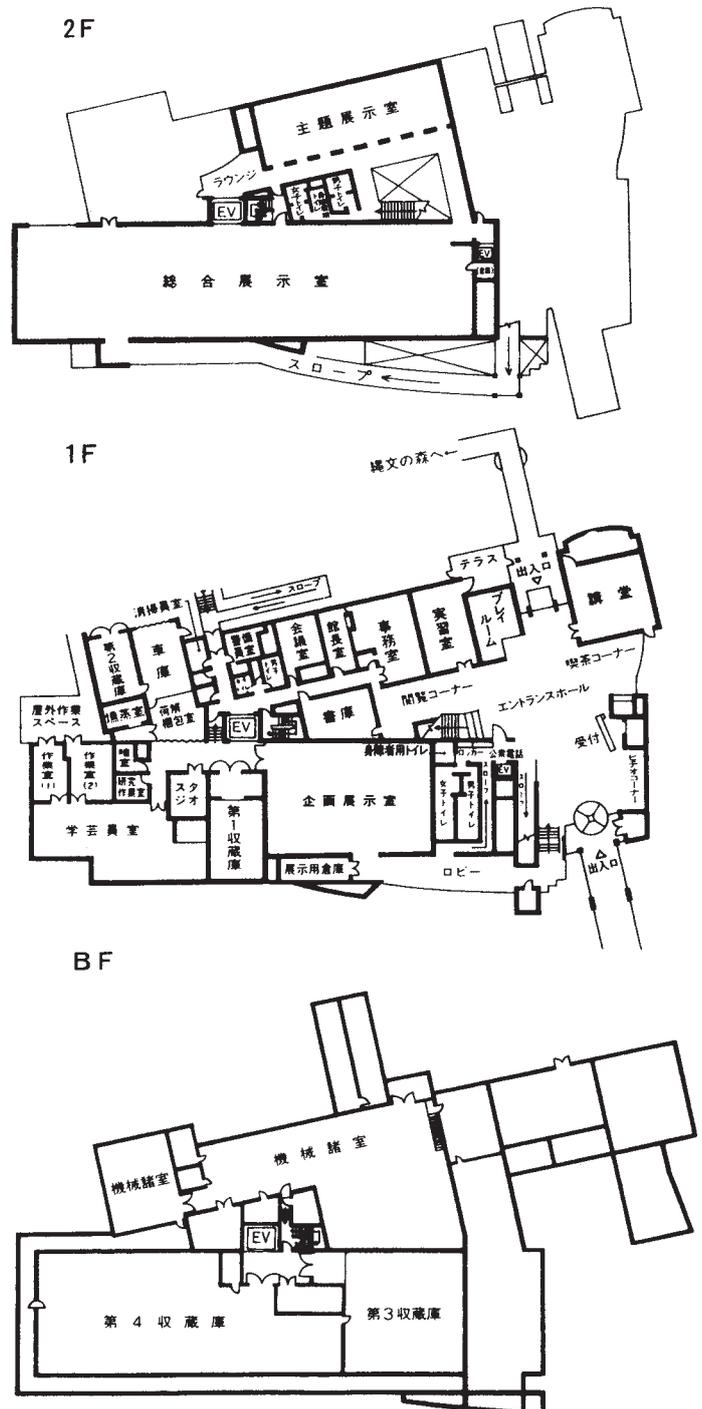
- 1)敷地面積 7,795.81㎡ 2)建築面積 2,709.92㎡
 3)延床面積 5,446.73㎡ 1階 2,515.17㎡/2階 1,542.92㎡/地下1階 1,388.64㎡
 4)階数 地下1階・地上2階 5)構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造(展示室 PRC梁構造)
 6)高さ 14.4m

注)博物館周辺環境との調和をはかるため高さを15m以内に、また地下水などの水脈保全のため地下部分についても10m以内に制限して建設を行った。

[各室の面積]

区分	室名	室数	階層	面積(㎡)
展示部門	総合展示室	1	2	873.40
	主題展示室	1	2	215.09
	企画展示室	1	1	318.85
	展示用倉庫	1	1	33.12
	小計			1,440.46
収蔵・保存部門	第1収蔵庫	1	1	102.67
	第2収蔵庫	1	1	46.20
	第3収蔵庫	1	B1	231.38
	第4収蔵庫	1	B1	472.41
	車庫・荷解梱包室	1	1	109.54
	作業室(1)	1	1	33.71
	作業室(2)	1	1	42.98
	燻蒸室	1	1	31.32
	小計			1,070.21
教育普及部門	講堂	1	1	124.88
	実習室	1	1	70.97
	プレイルーム	1	1	51.60
	閲覧コーナー	-	1	78.80
	ビデオコーナー	-	1	45.66
小計			371.91	
調査研究部門	書庫	1	1	50.19
	学芸員室	1	1	193.49
	スタジオ・暗室	1	1	40.30
	研究作業室	1	1	16.99
小計			300.97	
管理部門	館長室	1	1	33.03
	事務室	1	1	83.98
	会議室	1	1	38.27
	警備員室	1	1	25.03
	清掃室	1	1	10.67
	機械諸室	-	B1	575.49
	管理共有部分	-	1	424.54
	小計			1,191.01
サービス部門	エントランスホール	-	1	333.12
	喫茶コーナー	-	1	56.29
	ロビー	-	1	106.32
	スロープ	-	-	196.91
	共有部分	-	-	379.53
	小計			1,072.17
合計			5,446.73	

[各階の平面図]



Ⅲ 事業の概要

1 常設展示

(1) 総合展示

ゾーン1 人類の登場

■ 松戸のあけぼの

旧石器時代の展示空間は常設展示室の入り口部分、展示全体の導入部であるので、短時間で旧石器時代に関心を抱いてもらえるように、見てわかる展示を心がけた。特に実資料(石器)の展示については、単に「石」の羅列にならないように、3つの展示スペース相互に関連をもたせた。

ゾーン2 狩りと採集のムラ

■ 縄文人の暮らし

近年の相次ぐ発掘調査の成果は、これまでの縄文時代の生活に対する私達のイメージを一変させている。ここでは、遺跡から出土する動物・植物遺存体を手がかりにして、ムラの外での生業活動の復元を行い、貝の花貝塚の復元模型を中心にムラの中での日常生活の復元を行っている。

■ ムラのうつりかわり

縄文時代は安定した食糧供給に支えられて、人々は定住を始め、やがてムラを営むようになった。この縄文時代草創期から晩期にいたるムラの盛衰と生活基盤の変化を、幸田貝塚・子和清水貝塚・貝の花貝塚など、市内の遺跡の出土資料等を使用して、明らかにしようと試みている。

■ 人々の交流

縄文時代の人々は、近隣だけでなく、遠く離れた地域の人々とも交流していたことが、遺跡から出土する土器・石器などによってわかる。ここでは、松戸市内から出土した石器石材の産地推定を通して、松戸を中心とした縄文時代の人々の交流圏や、石材の入手経路について、展示を行っている。

ゾーン3 稲作社会の誕生

■ 米作りの暮らし

弥生時代になって中国大陸や朝鮮半島から多くの人々が日本に到来し、様々な新しい技術をもたらした。とりわけ、古墳時代の変化を松戸市域の出土資料を用いて展示している。

■ 古墳の出現

前方後円墳という共通の形の墓が全国で築かれた古墳時代における松戸市域の特質を、河原塚古墳群や栗山古墳群などの出土遺物を用いて展示を行っている。

ゾーン4 下総国のはじまり

■ 古代の松戸

古代の松戸周辺は下総国西端の葛飾郡に含まれていた。下総国の国府は市川市国府台周辺にあったと考えられており、この時期の松戸市域は政治的求心力のある国府の近郊地域として位置づけられる。

ゾーン5 武士と民衆

■ 千葉氏と高城氏

武士が政権の座に就いた中世、鎌倉時代の松戸市域では千葉氏の一族が登場する。本拠とした風早郷を名乗った風早氏である。室町から戦国時代にかけては高城氏が勢力を伸ばした。戦国後期に大谷口小金城を本拠とした高城氏は、東葛飾地域最大の領主となった。高城氏は戦国大名間の争いの渦中で、次第に後北条氏の支配に属するようになり、やがて豊臣秀吉の天下統一により滅亡を余儀なくされた。関連する文書資料および小金城出土資料などから同氏の当該期における位置づけを解説している。

■ 中世人の生と死

中世の人々は現世のみならず来世での幸福を強く願った。市内に残存する資料からその具体的な信仰を探った。板碑は供養碑としてとくに関東地方で流行した。市内の武蔵型板碑の出土地を見ると、多くは小さな谷が入り組んだ台地の縁辺部であるところから、中世人の生活空間が推量される。また関東中世史の研究に欠かせない「本土寺過去帳」所載の地名と一致する場合も多い。過去帳はその存在自体が人々の往生願望の現れであるが、ほかにも合戦記事、多くの職人の名などが見える。展示においてはその豊富な内容の一端を解説している。

ゾーン6 町場と村

■ 近世の村

近世社会に入ったころの松戸市域はほとんどが農村で、幕末でも松戸宿・小金宿を除き53の村(新田村を含む)に分かれていた。近世の領主は、村を行政単位として年貢などを徴収したり、宗門改めや五人組制度等によって農民を支配し、村では名主・組頭などの村役人を代表者として生産・生活を営んでいた。当時の農村生活の楽しみには、庚申講などでの共同飲食や、お伊勢参りなど寺社参詣の旅があった。

■ 宿場と河岸

松戸市域には水戸道中松戸宿と小金宿の2つの宿場町があった。幕府の交通政策によって公的に設定された宿は、単なる交通の拠点としてでなく、周辺の流通・経済の中心地として発展した。特に江戸川岸に河岸場が発達した松戸宿は、陸上交通だけでなく、江戸川と利根川の河川交通・流通の中継基地という性格が加わり、また江戸川の対岸金町に幕府が関所を設けたので旅籠も多く、下総北西部の重要な町場に発展した。

■ 小金牧と御鹿狩

下総台地には古代から馬の牧場が設置され放牧が行われていた。江戸幕府はこの台地に直轄の牧場、小金牧・佐倉牧を開設するが、大半が小金牧に含まれた市域は、牧を管理する野馬奉行役宅や金ヶ作役所が設けられ、牧支配の中核地だった。また、徳川将軍家は「御鹿狩」と呼ばれた大規模な狩りを小金原で計4回行ったが、その舞台は現在の松飛台周辺だった。この狩りには、小金原の地元はもちろん武蔵・上総など4か国から農民が勢子として動員されたが、めったにない娯楽的要素もあった。

ゾーン7 都市へのあゆみ

■ 松戸1868～1960

近代を迎えた松戸は葛飾県、印旛県をへて千葉県に編入される。郡役所、郵便局、警察、裁判所が置かれ、東葛飾郡の行政の中心となった。19世紀末から20世紀初頭にかけては常磐線、流電、東武野田線(いずれも現在の名称)が市内を通過し、交通網の整備がすすむ。やがて戦争の時代にいたると多くの市民が戦場へ駆り出され、あるいは銃後の生活を強いられた。戦後の松戸は常盤平団地に象徴されるように、首都圏の住宅供給地として、大きくその景観、産業構造を変貌させている。このような近現代での松戸の変化を絵年表を中心に、市域の変遷図、土地利用変遷図などの資料を用い、日本史全体の流れを考慮しつつ解説している。

■ 下谷・谷津・台

松戸市が現在のような姿になったのは、昭和30年～40年代の高度経済成長期に大規模な宅地開発や工業団地の造成が行われたことが大きい。この時期には人口の社会増が大きく、市民の生活も全体的な景観も大きく変貌した。ここでは、下谷・谷津・台というフォークタームから、市域を江戸川低地(下谷)、下総台地の開析谷周辺(谷津)、下総台地の平坦面(台)の3種類に分け、大きな変貌を遂げる直前の昭和30年代前半の景観模型をもとに、地形、水利、生産形態、住まい方などを例にとりて先人の人々の生活の場がどのようなものであったのかを対比的に説明している。

■ 常盤平団地の誕生

松戸市は昭和30年代の半ばから、その大半を占めていた近郊農村から首都圏の住宅都市へと急激にその姿を変貌させていくが、その先駆けとなったのが常盤平団地であった。この団地の住民の大半が首都圏の企業に勤めるサラリーマンの家庭で、住宅都市を目指していた松戸市の新しい市民像を代表していた。この展示では、あるサラリーマン家庭の昭和37年の暮らしが当時の生活財によって原寸大の2DKのなかに復元されている。

(2) 主題展示

主題1 考古学と科学の眼

総合展示室で復元されている4000年前の縄文時代に存在した森はどのようにして復元されたのか、また、縄文時代の海岸線をどのようにして知ることが出来たのか。あるいは、文字などのなかった遙か昔の年代がなぜ分かるのか、といった主に自然科学的な手法を用いた歴史の復元方法を紹介している。

主題2 虚無僧寺一月寺

江戸時代の小金宿には、青梅鈴法寺とともに普化宗総本山だった一月寺があり、全国に知られていた。中国唐代の普化禅師を宗祖とする禅宗の一派だった普化宗と、その僧侶である虚無僧が、近世前期に成立して近世中期に最盛期を迎えたこと。また、映像によって虚無僧の姿や生活の歴史や、江戸時代虚無僧に独占された尺八の歴史・音楽などを紹介している。

主題3 二十世紀梨の誕生

果物のナシの代表品種「二十世紀梨」は、現在鳥取県での栽培が有名であるが、実は明治時代に現在の松戸市内で松戸覚之助少年に偶然発見され、次第に全国で栽培されたのであった。そのため、現在市内に「二十世紀が丘」の地名が残るが、この展示室では発見者松戸覚之助のことや、発見以前(江戸時代)から盛んであった下総東葛地域のナシ栽培の歴史、また映像により現在の市内梨園での二十世紀梨の開花から収穫までの栽培の様子を紹介している。

主題4 三匹獅子舞

松戸市内の3地区で演じられている獅子舞は、ひと組の踊り手が3人からなる「三匹獅子舞」と呼ばれるものである。シシ(獅子)が登場する芸能は日本国内ではなじみ深いものであるが、一口にシシといっても、頭の形・演じ方ともにさまざまな違いがあることは意外に知られていない。ここでは山路興造氏の所説をもとに、三匹獅子舞の特徴、一人立ちの獅子舞と二人立ちの獅子舞の差異、絵画史料にみる一人立ちの獅子舞と風流踊、といった観点から三匹獅子舞の系譜と地域的広がりを映像を用いて解説している。

(3) 野外展示

竪穴住居復元

博物館北側の台地に、市内の遺跡から発掘された住居跡の資料に基づいて、縄文時代中期の竪穴住居3棟を原寸復元した。常時、竪穴住居1棟を開放し、住居内を自由に見学できるようになっている。

(4) 映像展示

ビデオコーナー

■ ビデオ映像

松戸市内に関わりのある映像ソフト7作品を製作して公開している。

- ①大地に埋もれた歴史
- ②町並み今昔物語
- ③富士講
- ④万作を語る
- ⑤三匹獅子舞～和名ヶ谷～
- ⑥三匹獅子舞～上本郷～
- ⑦三匹獅子舞～大橋～

2 資料・企画展示

(1) 館蔵資料展「シルクロードとガンダーラ」

◆展示意図

当館所蔵のシルクロード資料は平成9年に特別展「シルクロードとガンダーラ」展で展示されて以降、一部資料の展示にとどまっていた。そこで、本展覧会では当館所蔵のシルクロード関係資料を多くの市民に公開し、併せて、平成24年度に展示し好評を得た当館所蔵のガンダーラ仏教美術品も展示し、館蔵資料の市民への周知及び優れた古代美術作品の鑑賞機会を提供することを目的とした。

◆主催 松戸市立博物館(企画担当 大森隆志(当館学芸員))

◆後援等 (1)後援:(公財)松戸市文化振興財団、チバテレビ
(2)広報協力:新京成電鉄株式会社、北総開発鉄道株式会社、流鉄株式会社

◆会期 平成27年4月25日(土)～6月7日(日)

◆会場 松戸市立博物館 企画展示室

◆観覧者数 4,796人(37日)

◆観覧料 無料

◆印刷物 ポスター B2判 300枚

チラシ A4判 10,000枚

展示解説シート A3判 1,000部(館で印刷)

◆展示資料リスト

No.	名称	出土地・収集地等	材質	数	時代
1	彩色タイル	イラン		1	紀元前8世紀
2	軟膏容器	トルコ	青銅	1	紀元前10～8世紀
3	鳥文瓶	イラン	型吹きガラス	1	12世紀
4	ヴィーナス立像	アフガニスタン	大理石	1	1～5世紀
5	杯	エジプト	ペーストガラス	1	紀元前2～後1世紀
6	碗	イラン	切子ガラス	1	3～7世紀
7	地母神像	アフガニスタン	蛇紋岩・大理石	1	紀元前2000年紀
8	仏頭	アフガニスタン	ストゥッコ	1	4～5世紀
9	仏頭	インド伝マトゥラー	砂岩	1	4～5世紀
10	菩薩半跏像	パキスタン	片岩	1	1～4世紀
11	浮彫「幼児の土布施」	パキスタン	片岩	1	3～4世紀
12	浮彫「初転法輪」	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
13	浮彫「四天王奉鉢」	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
14	浮彫「梵天勧請」	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
15	浮彫「涅槃・仏塔礼拝」	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
16	浮彫「分舍利」	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
17	浮彫「スリグプタの招待・占夢」	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
18	浮彫「火神堂内毒龍調伏」	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
19	浮彫「役人」	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
20	浮彫「献花供養者像」	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
21	菩薩坐像	東南アジア	青銅	1	8世紀
22	扉	パキスタン	青銅	1	1～2世紀
23	浮彫「苦行」	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
24	浮彫「降魔成道」	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
25	舍利容器	パキスタン	片岩	1	3～4世紀
26	把手付水瓶	パキスタン	銅	1	1～2世紀
27	飾板	アフガニスタン	青銅	1	1～4世紀
28-①	三宝環	パキスタン	銅・金箔	1	2～5世紀
28-②	法輪	パキスタン	銅・金箔	1	2～5世紀
28-③	蓮華文	パキスタン	銅・金箔	1	2～5世紀
28-④	蓮華文	パキスタン	銅・金箔	1	2～5世紀



◆関連企画

・歴史を語る② 「シルクロードの西 古代トラキア人の社会と文化」(会場・講堂)

対 象 者 一般

開催月日 平成27年5月23日(土)13時～15時

講 師 田尾誠敏氏(東海大学講師)

参加人数 73人

(2) 館蔵資料展「松戸市平和祈念展」

◆展示意図

市民から寄贈された資料を通して多くの犠牲と悲劇を生んだ戦争の体験と記憶を後世に伝えるとともに、平和の尊さを多くの市民に伝える。

◆主催 松戸市立博物館(企画担当 柏木一朗<当館学芸員>)

◆後援等 (1)後援:(公財)松戸市文化振興財団
(2)広報協力:新京成電鉄株式会社、北総開発鉄道株式会社、流鉄株式会社

◆会期 平成27年7月18日(土)～9月23日(祝・水)

◆会場 松戸市立博物館 企画展示室

◆観覧者数 3,797人(59日間)

◆観覧料 無料

◆印刷物 ポスター A2判 300枚
チラシ A4判 10,000枚
パンフレット A4判 5,000部

◆展示資料リスト



No.	名称	年代	所蔵(空欄は館蔵)
I	【松戸の軍事施設】		
	松戸飛行場		
1	アルバム「松戸飛行場工事記念帖」	昭和15年(1940)	
2	書籍「航空機乗員養成所」	昭和18年(1943)	
3	雑誌「写真週報」No.172	昭和16年(1941)12月2日	個人蔵
4	写真「中央航空機乗員養成所(正門)」	昭和	公益社団法人日本写真家協会日本写真保存センター
5	写真「中央航空機乗員養成所(教室)」	昭和	公益社団法人日本写真家協会日本写真保存センター
6	写真「中央航空機乗員養成所(飛行場)」	昭和	公益社団法人日本写真家協会日本写真保存センター
7	写真「第10飛行師団第53戦隊「屠龍」)	昭和19年(1944)末頃	公益社団法人日本写真家協会日本写真保存センター
8	写真「第3震天航空隊所属「屠龍」)	昭和	公益社団法人日本写真家協会日本写真保存センター
9	写真「第3震天航空隊パイロット」	昭和19年末頃	公益社団法人日本写真家協会日本写真保存センター
	軍用鉄道		
1	地図「松戸」(25000分の1)	昭和7年(1932)	
2	陸軍用地境界標柱	昭和	松戸市教育委員会
	陸軍工兵学校		
1	陸軍工兵准尉正装一式	昭和	
2	勲五等瑞宝章	昭和	
3	功七級金鷄勲章	昭和	
4	功七級青色桐葉章	昭和	
5	大礼記念賞	昭和	
6	支那事変従軍記章	昭和	
7	建国功労章	昭和	
8	勲八等景雲章	昭和	
9	紀元2600年祝典記念章	昭和	
10	昭和六年乃至九年事変従軍記章	昭和	
11	双眼鏡	昭和	
12	図面「八柱演習場」	昭和	
13	書類「下士官候補者心得細則」	昭和14年(1936)	
14	写真「杉田源兵衛肖像(工兵准尉正装)」	昭和14年(1939)	
15	写真「杉田源兵衛肖像(結婚記念)」	昭和14年(1939)	
16	写真「陸軍工兵学校正門」	昭和	
17	写真「工兵学校正門前を行進する兵士」	昭和	
18	写真「陸軍工兵学校(校庭)」	昭和	
19	写真「対戦車肉薄攻撃(八柱作業場)」	昭和	
20	写真「演習風景(八柱作業場)」	昭和	
21	写真「江戸川架橋訓練」	昭和	
22	昭五式軍衣(将校用)	昭和	

No.	名称	年代	所蔵(空欄は館蔵)
Ⅱ	【経済統制下の市民生活】		
1	書類「生活必需品配給台帳」	昭和17年(1942)	
2	書類「配給関係文書編冊」	昭和18年(1943)	
3	書類「愛国婦人会関係文書綴」	昭和14年(1939)	
4	たすき(愛国婦人会)	昭和	昭和館
5	防空ずきん	昭和	昭和館
6	女性上着	昭和	昭和館
7	もんぺ	昭和	昭和館
8	肩掛けかばん	昭和	昭和館
9	水筒	昭和	昭和館
10	雑誌「婦人倶楽部」(昭和18年3月号)	昭和18年(1943)	
11	雑誌「日本ノコドモ」	昭和19年(1944)	
12	学童服(上下)	昭和	昭和館
13	書類「戦時貯蓄債券」	昭和17～20年(1942-45)	
14	書類「報国債券」	昭和17～20年(1942-45)	
15	雑誌「写真週報」No.300	昭和17年(1942)12月8日	個人蔵
16	書類「家庭用米穀通帳」	昭和19年(1944)	
17	書類「家庭用木炭通帳」	昭和16年(1941)	
18	書類「外食者用米飯外食券」	昭和16年(1941)	
19	書類「松戸市民ノ皆様ニ」	昭和18年(1943)	
20	雑誌「写真週報」No.259	昭和18年(1943)2月17日	個人蔵
21	書類「生活必需品配給台帳」	昭和17年(1942)	
22	書類「配給関係文書編冊」	昭和18年(1943)	
23	陶製湯たんぽ	昭和	昭和館
24	陶製ナイフ	昭和	昭和館
25	陶製フォーク	昭和	昭和館
26	陶製アイロン	昭和	昭和館
27	陶製水筒	昭和	昭和館
28	陶製戸車	昭和	昭和館
Ⅲ	【戦争と市民】		
1	国民服(上着)	昭和	
2	表示板「只今訓練警戒警報発セラル」	昭和	昭和館
3	防空用鉄かぶと	昭和	
4	海軍将校用軍帽(徳川武定旧蔵)	昭和	松戸市戸定歴史館
5	軍艦進水記念品(戦艦陸奥)	昭和	松戸市戸定歴史館
6	軍艦進水記念品(空母飛龍)	昭和	松戸市戸定歴史館
7	写真「徳川武定肖像」(海軍造船大佐)	昭和10年(1935)頃	松戸市戸定歴史館
8	ポスター「海軍志願兵徴募」(複製)	昭和	個人蔵
9	出征の日章旗(土屋三郎)	昭和	
10	出征の日章旗(小島七郎)	昭和19年(1944)	
11	写真「出征記念写真(小島七郎)」	昭和19年(1944)	
12	千人針(無地)	昭和	
13	千人針(虎)	昭和	
14	絵葉書「千人針風景」	昭和	
15	蓄音器	昭和	名輪秀男氏
16	レコード「産めよ増やせよ」(柳家金語楼)	昭和	名輪秀男氏
17	出征の幟(土屋三郎)	昭和	
18	たすき(国防婦人会)	昭和	昭和館
19	「臨時召集令状」(複製)	昭和	個人蔵
20	軍隊手帳	昭和	
21	九八式軍衣(下士官兵用)	昭和	
22	編上靴	昭和	
23	書類「雑件綴」	昭和	
24	M69焼夷弾筒	昭和	
25	伝単(米軍散布のビラ)	昭和20年(1945)	
26	写真「千葉県連合防空訓練」	昭和14(1939)年7月	
27	写真「松戸防空監視隊本部関係者集合写真」	昭和	
28	写真「在郷軍人集合(松戸尋常高等小学校)」	昭和	
29	写真「松戸警察署前に整列する警防団」	昭和14年(1939)以降	

No.	名 称	年 代	所蔵(空欄は館蔵)
30	写真「戦没者慰霊祭(松戸尋常高等小学校)」	昭和	
31	書類「遺留品明細書」	昭和19年(1944)	
32	書類「香典帳」	昭和18年(1943)	
33	ラジオ(外柢木製)	昭和	
Ⅳ	【平和への願い】		
1	書類「遺族名簿」	昭和31年(1956)	
2	書類「ララ物資関係文書」	昭和25年(1950)	
3	写真「六実を走るアメリカ軍のジープ」	昭和20年代	
4	写真「市制5周年市民演芸大会(常盤館)」	昭和23年(1948)	
5	写真「平和大使結団式」	平成26年(2014)	松戸市総務課
6	写真「青少年ピースフォーラム」	平成26年(2014)	松戸市総務課
7	写真「千羽鶴を長崎原爆資料館へ献納」	平成26年(2014)	松戸市総務課
8	写真「平和祈念大使帰庁報告会」	平成26年(2014)	松戸市総務課
9	千羽鶴	平成26年(2014)	松戸市総務課
10	全国主要都市戦災概況図(松戸)	昭和20年(1945)11月	国立公文書館

◆関連企画

- ・歴史を語る③「鉄道連隊演習線の盛衰とその遺産」(会場・講堂)

対 象 者 一般

開催月日 平成27年9月13日(日)13時～15時

講 師 中川洋氏(法政大学講師)

参加人数 50人

(3)「よみがえる画家 板倉鼎・須美子展」(美術館準備室担当)

◆展示意図

昭和初年に20代で夭折した松戸ゆかりのエコール・ド・パリの洋画家、板倉鼎・須美子夫妻の生涯にわたる作品を、松戸市教育委員会所蔵作品を中心に展覧して画業の全容を辿り、長く埋もれていたふたりの優れた画家の再評価を図った。また、夫妻と交流のあった画家たち、文学者たちの作品と関連資料を併せて展示し、夫妻の仕事を美術史上に位置づける上での手がかりとした。

◆主催 松戸市教育委員会(企画担当 田中典子〈社会教育課美術館準備室長・学芸員〉)

◆会期 平成27年10月10日(土)～11月29日(日)
(前期:10月10日～11月1日、後期:11月3日～11月29日)

◆会場 松戸市立博物館 企画展示室

◆後援等 (1)助成:自治総合センター、芸術文化振興基金、公益財団法人花王芸術・科学財団
(2)後援:JOBANアートライン協議会
(3)広報協力:北総鉄道株式会社、流鉄株式会社、新京成電鉄株式会社

◆観覧者数 3,809人(44日間)

◆観覧料 ◆一般 400円(団体320円 共通600円)
◆高大生 200円(団体160円 共通300円)
◆中学生以下 無料

◆出品点数 154点(作品127点、資料27点)

◆印刷物 ポスター B 3判800枚、B 2判200枚
チラシ A 4判15,000枚、A 3判3,000枚
観覧券 7種全8,000枚
カタログ A 4判1,200部
絵はがき 5種各150枚(全750枚)

◆関連企画

(1)記念講演会

記念講演会①(会場:講堂)

対象者 一般

開催月日 10月12日(月・祝)13時～14時30分

タイトル 「板倉夫妻を巡る文学者たち」

講師 川崎キヌ子氏(和洋女子大学名誉教授)

参加人数 97人

記念講演会②(会場:講堂)

対象者 一般

開催月日 11月3日(火・祝)13時～14時30分

タイトル 「1920年代パリを生きた日本人美術家－藤田嗣治、板倉鼎・須美子」

講師 林洋子氏(文化庁芸術文化調査官)

参加人数 74人

(2)ワークショップ(会場:実習室)

対象者 小学生

開催月日 10月25日(日)10時～正午、14時～16時(2回開催)

タイトル 「キミだけの南のくにを想像してみよう～すみこさんのハワイとキミが描く南のくに～」

講師 猪狩智子氏(東京藝術大学大学院)、松浦美代子氏(修復家)

参加人数 26人(午前14人、午後12人)



(3) ギャラリートーク(企画展示室)

対象者 一般

開催月日 10月17日(土)、10月31日(土)、11月7日(土)、11月21日(土)(全4回) 各回とも14時~14時30分

タイトル 「板倉夫妻、その生涯と作品」

講師 猪狩智子氏、吉村苑子氏、川村笑子氏(3氏とも東京藝術大学大学院)

参加人数 延べ80人

(4) シンポジウム(会場:松戸市民会館301会議室)

対象者 一般

開催月日 11月22日(日)14時30分~16時

タイトル 「松戸の美術振興を考える」

内容 松戸市教育委員会が収集してきた松戸ゆかりの美術作品や、平成27年度から「松戸の作家の個展」で紹介を始めた松戸市在住・在勤の美術作家等について報告した。また、これらの美術資源を生かし松戸の美術振興を図るためにはどうすれば良いか、有識者の意見を聞き、市民とともに考える機会とした。

①報告「松戸の美術資源について」

②パネルディスカッション「松戸の美術振興を考える」

報告者 田中典子(社会教育課美術館準備室長・学芸員)

コーディネーター 保科豊巳氏(東京藝術大学美術学部長)

パネリスト 石井武夫氏(松戸美術会長)、泉晴行氏(松戸市立第五中学校長)、
瀬間由紀子氏(松戸市立相模台小学校絵本読み聞かせボランティア)、
武田司氏(松戸市教育委員)、
端山聡子氏(横浜美術館教育普及グループチームリーダー)

参加人数 80人

◆展示資料リスト

cat.no.	作者	タイトル	制作年	サイズ 縦×横(cm)	材質・技法	所蔵者
I 板倉 鼎の作品						
1		鉢植えの花	1917年3月25日	23 × 16	紙、水彩	個人蔵
2		サクラソウ	1917年頃3月26日	22.9 × 16	紙、水彩	個人蔵
3		木立	1918年	16.8 × 24.5	紙、水彩	個人蔵
4		千葉町	1917年10月	45 × 60	キャンバス、油彩	個人蔵
5		蓮田の畔から	1918年	45 × 60	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
6		赤ん坊	1919年	15.3 × 23.4	紙、鉛筆	松戸市教育委員会
7		コーヒーカップとサクラランボ		22.4 × 16	紙、インク	松戸市教育委員会
8		水辺の風景(坂川)	1920年頃	60.2 × 72.8	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
9		水辺の風景(堂ノ口)	1920年頃	64.6 × 90.1	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
10		風景 秋更け行く	1920年	53 × 72.5	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
11		建物		13.7 × 19.2	紙、インク、墨	松戸市教育委員会
12		講堂		19.8 × 31.3	紙、コンテ	松戸市教育委員会
13		風景	1921年	12 × 15.2	紙、銅版	松戸市教育委員会
14		風景	1921年~1922年頃か	15 × 20	紙、銅版	松戸市教育委員会
15		静物	1921年	65.3 × 91	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
16		温室	1921年	45.6 × 60.7	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
17		暮るる坂川べり	1922年	19.1 × 26.9	板、油彩	松戸市教育委員会
18		風景	1922年	15 × 20	紙、銅版	松戸市教育委員会
19		木影	1922年	80.4 × 116.8	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
20		草原	1922年	12 × 18	紙、銅版	松戸市教育委員会
21		鐘楼		21.5 × 15.6	紙、インク	松戸市教育委員会
22		ギターひく女	1922年	15.2 × 20.5	紙、銅版	松戸市教育委員会
23		夜の肖像	1922年5月	28 × 21.5	紙、エッチング	松戸市教育委員会
24		苗畑のあたり	1923年	27.1 × 35.1	板、油彩	松戸市教育委員会
25		浴後	1923年	97 × 145.5	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
26		沼	1924年	45.3 × 53	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
27		自画像	1924年	60.6 × 45.5	キャンバス、油彩	東京藝術大学
28		黒きショールの女	1924年頃	27 × 26.7	キャンバス、油彩	個人蔵
29		牡丹	1924年頃	64.7 × 53.2	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
30		七月の夕	1924年頃	145.6 × 80.5	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
31		石原先生保田の家	1924年頃	32.7 × 41.2	板、油彩	個人蔵

cat.no.	作者	タイトル	制作年	サイズ 縦×横(cm)	材質・技法	所蔵者
32		鳥影	1924年	53 × 65.2	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
33		房総・保田より大島遠望	1925年	64.9 × 91	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
34		岬	1925年	23.8 × 33	板、油彩	松戸市教育委員会
35		須美子	1925年～1926年頃	41.4 × 33.4	板、油彩	木村美智子氏
36		花	1926年	60.6 × 34	布、金泥、油彩	松戸市教育委員会
37		ハワイ風景	1926年	33 × 45	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
38		須美子	1926年	44 × 37	キャンバス、油彩	個人蔵
39		マンゴーをもてるカナカ	1926年	65 × 53	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
40		土に育つ	1926年	116.1 × 79.9	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
41		静物(ワインと洋梨)	1926年	46 × 55	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
42		肖像	1926年頃	60.8 × 50.6	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
43		花(薔薇、矢車草)	1927年頃	73 × 54	キャンバス、油彩	個人蔵
44		人物	1927年頃	80.7 × 60	キャンバス、油彩	個人蔵
45		夏の野菜	1927年頃	65 × 70	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
46		野菜	1927年頃	38 × 55	キャンバス、油彩	個人蔵
47		静物	1927年	65 × 99.5	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
48		籠と果実	1927年頃	52.9 × 72.8	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
49		剣のある静物	1927年	72.5 × 91	キャンバス、油彩	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
50		雲と秋果	1927年	73.3 × 92	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
51		金魚と花	1927年頃	91.5 × 99.8	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
52		金魚と鳥貝	1927年頃	46 × 55	キャンバス、油彩	個人蔵
53		白いシャツの須美子	1927年頃	80.5 × 59.5	キャンバス、油彩	個人蔵
54		巴里にて(人物)	1928年2月	91.5 × 65	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
55		ヴェネツィア風景	1928年3月頃	33.3 × 41.7	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
56		風景(巴里街頭)	1928年	59.5 × 92	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
57		風景(巴里街頭) エスキース	1928年頃	7.8 × 14.8	紙、インク、水彩	松戸市教育委員会
58		風景(巴里街頭) エスキース	1928年頃	11 × 17	紙、水彩	松戸市教育委員会
59		一坊	1928年頃	27 × 22	板、油彩	個人蔵
60		金魚	1928年	65 × 92	キャンバス、油彩	千葉県立美術館
61		金魚	1928年5月頃	64 × 91.5	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
62		金魚と雲	1928年	79.5 × 98	キャンバス、油彩	千葉県立美術館
63		裸婦	1928年6～7月頃	89.2 × 130.3	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
64		裸婦 エスキース	1928年上半旬	×	紙、インク、水彩	松戸市教育委員会
65		裸婦 エスキース	1928年6月中旬	12.3 × 18	紙、水彩	松戸市教育委員会
66		籠の花、ほか3図 エスキース	1928年6月初旬	21 × 27	紙、インク、水彩	松戸市教育委員会
67		籠の花	1928年6月頃	81 × 65	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
68		籠の花 エスキース	1928年頃	15.5 × 12	紙、インク、水彩	松戸市教育委員会
69		雲と百合など	1928年	52 × 51.6	キャンバス、油彩	個人蔵
70		静物	1928年頃	72.5 × 91	キャンバス、油彩	千葉県立美術館
71		葡萄と桃	1929年	45 × 45	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
72		葡萄と桃 エスキース	1928年11月30日	9.5 × 7.5	紙、鉛筆、水彩	松戸市教育委員会
73		雲と少女	1928年	91.4 × 65	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
74		雲と少女 エスキース	1928年頃	15.6 × 12.3	紙、インク、水彩	松戸市教育委員会
75		白椅子による女	1928年	91 × 65	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
76		白椅子による女 エスキース	1928年9月20日	15 × 11	紙、インク、水彩	松戸市教育委員会
77		白椅子による女 エスキース	1928年頃	15 × 11.5	紙、インク、水彩	松戸市教育委員会
78		白椅子による女 エスキース	1928年頃	13.5 × 14	紙、鉛筆、水彩	松戸市教育委員会
79		黒椅子による女	1928年	91.9 × 91.8	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
80		画家の像	1928年12月	117 × 80	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
81		絵を描く女 エスキース	1928年頃	13.6 × 14.2	紙、インク、水彩	松戸市教育委員会
82		休む赤衣の女	1929年頃	110.3 × 142	キャンバス、油彩	個人蔵
83		休む赤衣の女 エスキース	1929年頃	20.9 × 27.4	紙、インク、水彩	個人蔵
84		須美子	1929年頃	54.5 × 45.7	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
85		赤衣の女(戸外) エスキース	1929年1月16日	14.3 × 11.2	紙、インク、水彩	松戸市教育委員会
86		赤衣の女 エスキース	1929年頃	15.5 × 12.5	紙、インク、水彩	松戸市教育委員会
87		赤衣の女	1929年	116.7 × 80.4	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
88		アルチショー	1929年	22 × 27.2	キャンバス、油彩	個人蔵
89		巴里風景	1929年	59.4 × 89.5	キャンバス、油彩	千葉県立美術館
90		リラ、アネモネ等	1929年	79 × 63.5	キャンバス、油彩	成田山書道美術館
91		花	1929年	60.4 × 38.2	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
92		裸婦	1929年	79 × 115	キャンバス、油彩	千葉県立美術館
93		ダリアと少女	1929年	91.7 × 91.8	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
94		赤衣	1929年頃	91.1 × 91	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
95		赤衣 エスキース	1929年頃	14 × 13	紙、インク、水彩	松戸市教育委員会
96		黄衣	1929年	91.1 × 91.1	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
97		黄衣 エスキース	1929年頃	17 × 17	紙、鉛筆、インク、水彩	松戸市教育委員会

cat.no.	作者	タイトル	制作年	サイズ 縦×横(cm)	材質・技法	所蔵者
98		蝶とダリア	1929年	27.3 × 40.8	キャンバス、油彩	個人蔵
99		蝸牛と梨	1929年頃	25.6 × 39.7	キャンバス、油彩	個人蔵
II 板倉/昇 須美子の作品						
100		午後 ベル・ホノルル12	1927～1928年頃	80 × 115.2	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
101		ベル・ホノルル13	1927～1928年頃	40.8 × 27	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
102		ベル・ホノルル14	1927～1928年頃	40.8 × 27	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
103		夕方 ベル・ホノルル15	1927～1928年頃	60 × 48.5	キャンバス、油彩	個人蔵
104		黒猫 ベル・ホノルル20	1928年頃	40.6 × 27	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
105		ベル・ホノルル21	1928年頃	73 × 60	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
106		ベル・ホノルル23	1928年頃	64.8 × 79.7	キャンバス、油彩	個人蔵
107		ベル・ホノルル24	1928年頃	64.6 × 80.5	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
108		ベル・ホノルル25	1928年頃	26.5 × 35	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
109		ベル・ホノルル26	1928～1929年頃	65.3 × 80.3	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
110		ハワイの丘	1928年	33.3 × 41.5	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
111		赤ちゃん	1927～1929年頃	53.5 × 64.2	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
112		ロシヤ人形	1930年頃	50 × 37.5	キャンバス、油彩	木村美智子氏
113		公園	1931年	60 × 78.8	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
114		パルコンの少女	1931年頃	79.1 × 60.2	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
115		松の屋敷		45.5 × 59.9	キャンバス、油彩	松戸市教育委員会
板倉夫妻の資料						
116		板倉鼎ポートレート	1919年1月20日	8.7 × 5.4	印画紙、プリント	松戸市教育委員会
117		板倉鼎ポートレート	東京美術学校時代	9.8 × 6.8	印画紙、プリント	松戸市教育委員会
118		おとなしい昇須美子さん	1924年7月	32.8 × 24.5	紙、印刷	個人蔵
119	板倉須美子	手紙(ハワイ・ホノルルより、板倉打太郎・勝子宛て)	1926年3月1日	21.5 × 27.7	紙、インク	個人蔵
120	石井柏亭著	『美術と自然 滞欧手記』	1925年	22.7 × 16.3	図書	個人蔵
121		パレット(鼎)	1926年	44 × 66	木	個人蔵
122		パレット(須美子)	1927年	27.1 × 41	木	個人蔵
123	板倉鼎	手紙(イタリア・フィレンツェより、板倉弘子宛て)	1928年4月3日	9.3 × 14.2	絵はがき、インク	個人蔵
124		《Premier Salon des Artistes Japonais.》	1929年	32.2 × 24.7	紙、印刷	個人蔵
125	板倉鼎	手紙(フランス・パリより、板倉打太郎宛て)	1929年9月3日	21.5 × 18.5	紙、インク	個人蔵
126		家計簿	1926年～1929年	28.2 × 14.5	紙、インク	個人蔵
127		板倉鼎遺作滞欧作品展覧会目録	1930年	19 × 13.2	紙、印刷	松戸市教育委員会
128	千葉県立美術館	板倉鼎展チラシ	1980年	18.2 × 25.7	紙、印刷	松戸市教育委員会
III 板倉夫妻をめぐる画家たち、文学者たちの作品・資料						
129	堀江正章	石膏像脚部		57.6 × 43.7	紙、コンテ	東京藝術大学
130	岡田三郎助	ムードンの夕暮	1899年	54.1 × 65.1	キャンバス、油彩	東京藝術大学
131	ロジェ・ビシエール	薔薇をもつ婦人像	1920年頃	86 × 68	キャンバス、油彩	星野画廊
132	斎藤豊作	羊飼	1906年～1912年頃	45.6 × 38	キャンバス、油彩	目黒区美術館
133	伊原宇三郎	南仏アルルの古い街	1926年	37.5 × 46	キャンバス、油彩	星野画廊
134	岡鹿之助	信号台	1926年	45.7 × 53.2	キャンバス、油彩	目黒区美術館
135	田邊喜規	南仏の風景		73.4 × 91.7	キャンバス、油彩	個人蔵
136	田邊喜規	幼き徳成	1942年	32.8 × 24	板、油彩	個人蔵
137	昇曙夢著	露西亞縦横記	1934年11月17日	20 × 14	図書	松戸市教育委員会
138	与謝野寛	板倉夫妻結婚式誓詞	1925年	49.4 × 36.5	紙、墨	個人蔵
139	与謝野晶子	『瑠璃光』	1925年	19 × 13.7	図書	松戸市教育委員会
140	石原純(装幀:紅木蓮;津田青楓)	歌集『幾日』	1922年5月10日	19.7 × 14.1	図書	松戸市教育委員会
141	石原純	元名海岸	大正時代	33 × 45	キャンバス、油彩	個人蔵
142	原阿佐緒	花	大正時代	41 × 31.3	板、油彩	鋸南町歴史民俗資料館
143	原阿佐緒	短冊	1928年	36.2 × 7	紙、墨	個人蔵
144	原阿佐緒	色紙	1935年	21.2 × 18.2	紙、墨	個人蔵
145	原阿佐緒(装幀:中川一政)	歌集『うす雲』	1928年10月15日	19.7 × 13.7	図書	松戸市教育委員会
146	原阿佐緒(装幀:中川一政)	『原阿佐緒抒情歌集』	1929年5月1日	20 × 13.9	図書	松戸市教育委員会
147		『展望』第22号	1947年10月	20.9 × 15	紙、印刷	東京都江戸東京博物館
148		『展望』第45号	1949年9月	20.9 × 15	紙、印刷	東京都江戸東京博物館
参考出品						
149	板倉弘子	チューリップ		27 × 21.8	油彩	個人蔵
150	板倉弘子	白睡蓮		26.9 × 34.7	ボード、油彩	個人蔵
151	岡鹿之助	手紙(板倉打太郎宛)	1929年11月21日	11.3 × 14.5	紙、インク	個人蔵
152	板倉弘子編著・発行	『板倉鼎 その芸術と生涯』	2004年9月29日	21 × 15	図書	個人蔵
153		絵はがき「木影」	1922年		紙、印刷	島田安彦コレクション
154		パリの板倉鼎・須美子夫妻	1928年		映像	個人蔵

(4) 学習資料展「昔の暮らし探検」

◆展示意図

学習資料展「昔の暮らし探検」は、私たちの便利な生活がどのように形づくられてきたか、そのなかで失われたかつての生活における技術、知恵などを子どもたちに伝えようと開催した。今から80年程前の市内の農家の暮らしを出発点にして、衣食住の様々な生活の変化を探検しながら現在の生活に至る、身近な生活の歴史を紹介した。

◆主催 松戸市立博物館(企画担当 青木俊也<当館学芸員>)

◆会期 平成28年1月13日(水)～3月27日(日)

◆会場 松戸市立博物館 企画展示室

◆観覧者数 10,446人(62日間)
松戸市内小学校 38校見学
松戸市外小学校 20校見学

◆観覧料 無料

◆印刷物 チラシ A4判 10,000枚
ポスター B2判 10枚(館で印刷)
リーフレット A3判2つ折 2,000枚
探検手帳 A3判4つ折 500枚(館で印刷)

◆展示資料リスト

〈1〉住まう

(1) 農家の住まい

資料名	
農家(模型1/20)	農家の間取り(模型1/20)

〈2〉食べる

(1) かまど

資料名				
かまど(2)	まき	火吹き竹	十能	火挟み
火消し壺	七輪(2点)	洪うちわ	炭入れ	鉄瓶

(2) ご飯を炊く

資料名				
米櫃	一升枡(2点)	五合枡(2点)	一合枡	一斗枡
斗かき	米研ぎ桶	あげざる	羽釜(2点)	飯櫃(2点)
飯台	杓文字	飯櫃入れ		

(3) おかずを煮炊きする

資料名				
鉄鍋	銅鍋	銅行平鍋	杓子	焼き網
焙烙	せいろ	すり鉢	すりこ木	おろし金(金属製)
おろし金(陶製)	かつお節削り	脚付きまな板	杓文字掛け	あげざる
醤油徳利	酒徳利			

(4) 食卓

資料名				
普段のお膳	飯茶碗(2点)	汁椀(2点)	四つ椀	行事のお膳
ちゃぶ台(2点)	土瓶	茶碗		

(5) 水まわりの暮らし

資料名				
井戸車	釣瓶桶	手押しポンプ	手桶	水瓶
柄杓	流し台	洗い桶		

(6) 食べ物の保存

蠅帳(2点)	甕(3点)	漬け物樽(2点)
--------	-------	----------



〈3〉着る

(1)着物

資料名				
野良着	女の単衣の着物	女の袴の着物と羽織	男の単衣の着物	男の袴の着物と羽織
男子の袴の着物と羽織		男子の単衣の着物		

(2)機織り

資料名			
高機	綿繰り	糸車	手織りの袋

(3)裁縫

資料名				
針箱	くけ台	尺差し(2点)	裁ち板	座布団

(4)洗濯

資料名				
たらい	金だらい	洗濯板	洗濯石鹼	火のし
鍔	炭火アイロン	張り板		

〈4〉くらす

(1)冬のくらし

資料名				
火鉢(木製)	火鉢(陶製)	五徳	火箸	灰ならし
鉄瓶	炭おこし	十能(炭運び)	炭入れ	やぐら炬燵(2点)
行火	湯たんぼ(陶製)	湯たんぼ(ブリキ製)	掻い巻き布団	

(2)夏のくらし

資料名				
蚊帳	蚊遣りぶた	うちわ(3点)	すだれ屏風	すだれ

(3)明かり

資料名				
燭台	行灯	ランプ(2点)	電灯	手燭
がんどう	小田原提灯			

(4)しまう

資料名				
行李(2点)	箆笥	茶箱	衣桁	布団風呂敷
鏡台				

(5)掃除

資料名			
座敷ほうき	庭ほうき	ぞうきん	バケツ

(6)聞く・見る

資料名	
蓄音機	ラジオ

〈5〉耕す

資料名				
下肥桶	天秤棒	肥柄杓	万能	平鋤
えぶり(しろならし)	田んぼ(模型)	田下駄	田植え定規	除草機
踏み車	足踏み脱穀機	唐箕	もみならし	万石通し
俵じょうご	米俵	箕		

◆関連企画

小学生学芸員による展示解説会(会場:企画展示室)

開催月日 平成28年1月30日(土)

①14時00分～14時40分 ②15時00分～15時40分

対象者 学習資料展観覧者

講師 小学生学芸員 10名

実施結果 ①37人②33人

(5) ミニ写真展

- ◆展示意図 当館に移管された松戸市役所広報課旧蔵写真を常設展示室内で順次公開する。
- ◆主催 松戸市立博物館(企画担当 柏木一朗〈当館学芸員〉)
- ◆会期 ①平成27年8月29日(土)～9月30日(水)
②平成27年10月1日(木)～12月27日(日)
③平成28年1月5日(火)～3月31日(木)
- ◆会場 松戸市立博物館 常設展示室
- ◆観覧者数 単独として計上していない。
- ◆観覧料 常設展示観覧料に含む。
- ◆展示資料

「駅前の風景」①新京成編		
No.	名称	年代
1	根本踏切より新京成乗り入れ口を望む	昭和29年(1954)5月
2	松戸駅新京成ホーム	昭和30年(1955)頃
3	新京成松戸駅開業	昭和30年(1955)4月21日
4	新京成処女運行	昭和30年(1955)4月21日
5	上本郷駅	昭和
6	みのり台駅の事故	昭和
7	八柱駅	昭和
8	金ヶ作駅(現、常盤平駅)付近	昭和30年(1955)
9	常盤平駅前広場	昭和35年(1960)頃
10	常盤平駅前(セレモニー)	昭和
11	常盤平駅	昭和41年(1966)
12	常盤平駅前	昭和41年(1966)
13	五香駅	昭和31年(1956)
14	五香駅	昭和45年(1970)
15	五香駅前商店街	昭和
16	元山駅	昭和59年(1984)

「駅前の風景」②松戸駅編		
No.	名称	年代
1	松戸駅西口／市制10周年モニュメント	昭和28年(1953)5月
2	松戸駅西口	昭和32年(1957)頃
3	松戸駅西口広場	昭和32年(1957)
4	旧水戸街道／松戸駅西口入口交差点	昭和32年(1957)
5	松戸駅西口駅前商店街／松戸駅を望む	昭和32年(1957)
6	松戸駅西口／市制20周年のアーチ	昭和38年(1963)
7	松戸駅西口「市川駅」行バス乗り場	昭和38年(1963)頃
8	松戸駅西口「八柱霊園」行バス乗り場	昭和38年(1963)頃
9	松戸駅西口駅前商店街／旧水戸街道方面を望む	昭和38年(1963)頃
10	松戸駅西口	昭和40年(1965)頃
11	松戸駅西口広場	昭和48年(1973)
12	松戸駅西口／新駅舎	昭和48年(1973)
13	松戸駅西口駅前商店街／松戸駅西口を望む	昭和48年(1973)頃
14	松戸駅東口	昭和28年(1953)
15	松戸駅東口／タクシー乗り場	昭和46年(1971)頃
16	松戸駅東口駅前商店街	昭和46年(1971)頃
17	松戸駅西口／新駅舎建設工事	昭和44年(1969)頃

「駅前の風景」③北松戸・馬橋駅編		
No.	名称	年代
1	北松戸駅／ホーム	昭和29年(1954)頃
2	北松戸駅／土地区画整理工事	昭和30年(1950)11月頃
5	北松戸駅／千駄堀方面を望む	昭和33年(1958)頃
4	松戸競輪場／江戸川方面を望む	昭和33年(1958)頃
5	北松戸駅／江戸川方面を望む	昭和33年(1958)頃

6	北松戸駅／開業式	昭和33年(1958)12月25日
7	北松戸駅／開業祝賀会	昭和33年(1958)12月25日
8	北松戸駅／新駅舎	昭和44年(1969)頃
9	馬橋駅／東口	昭和36年(1961)
10	馬橋駅／県立松戸高校移転歓迎アーチ	昭和40年(1965)9月
11	馬橋駅／県立松戸高校移転開校記念パレード	昭和40年(1965)9月
12	馬場駅前／馬橋小学校集団登校	昭和42年(1967)4月
13	馬橋駅／特急「はつかり」(キハ81系)	昭和40年(1965)頃
14	馬橋駅／貨物専用駅	昭和42年(1967)8月
15	馬橋駅／東口駅前通り	昭和52年(1977)
16	馬橋駅／西口自転車置き場	昭和53年(1978)9月
17	馬橋駅／西口駅前の水害	昭和56年(1981)10月

(6) 第50回記念第1回松戸市展選抜展

- ◆展示意図 松戸美術会との協力により、松戸市美術展覧会第50回開催を記念して、市展運営に関わってきた指導的立場にある会員の作品から選抜展として開催した。
- ◆主催 松戸美術会・松戸市教育委員会生涯学習推進課・松戸市立博物館
- ◆会期 前期 平成27年4月28日(火)～5月10日(日)
後期 平成27年5月12日(火)～5月24日(日)(23日間)
- ◆会場 松戸市立博物館 企画展示室
- ◆観覧者数 館蔵資料展「シルクロードとガンダーラ」と同時開催のため、企画・特別展示等観覧者数には計上していない。
- ◆観覧料 無料
- ◆出品作家数 29人(日本画8、洋画18、彫刻3)

(7) 第50回記念松戸市展受賞者展

- ◆展示意図 松戸美術会との協力により、松戸市美術展覧会第50回開催を記念して、市展受賞者の作品展として開催した。
- ◆主催 松戸美術会・松戸市教育委員会生涯学習推進課・松戸市立博物館
- ◆会期 平成27年12月5日(土)～12月13日(日)(8日間)
- ◆会場 松戸市立博物館 企画展示室
- ◆観覧者数 372人
- ◆観覧料 無料
- ◆出品作家数 44人(日本画6、洋画33、彫刻5)

(8) 松戸市小中学生優秀作品展

- ◆展示意図 学習資料展の機会を利用して、市内小中学生の絵画や書道等の作品を選抜し、優秀作品展として開催した。
- ◆主催 松戸市立博物館
- ◆会期 ①松戸市小中学生観光絵画優秀作品展 平成28年1月13日(水)～1月24日(日)(10日間)
②松戸市書初優秀作品展 平成28年1月27日(水)～2月7日(日)(11日間)
③こども県展松戸市優秀作品展 平成28年2月10日(水)～2月21日(日)(11日間)
- ◆会場 松戸市立博物館 企画展示室入口
- ◆観覧料 無料

3 学習支援

(1) 講演会

■歴史を語る(会場:講堂・各回定員:80人)

- 第1回 演 題 「生き仏遊行上人がやってくる－柏市善照寺の事例から」
 対 象 者 一般
 開催月日 平成27年5月10日(日)
 内 容 時宗の最高位である遊行上人は、宗祖一遍にならって全国を廻ることになっており、高僧が直接札を配ることから、どこでも「生き仏」とあがめられた。この遊行上人一行の応接の様相を柏市善照寺の事例から紹介した。
 講 師 菅根 幸裕氏(千葉経済大学教授)
 参加人数 36人(事前応募34人、当日申込2人)
- 第2回 演 題 「シルクロードの西 古代トラキア人の社会と文化」
 対 象 者 一般
 開催月日 平成27年5月23日(土)
 内 容 オアシスの道とも呼ばれるシルクロードの陸路は、中国の古都長安を起点に西は地中海や黒海に到達する。その西側にあたるバルカン半島の東南部では、紀元前6～3世紀頃にトラキア人が活躍していた。本講演では、古代ギリシアの文献にも登場するトラキア人が遺した考古資料を通じて、その社会と文化について概観した。
 講 師 田尾 誠敏氏(東海大学講師)
 参加人数 73人(事前応募49人、当日申込24人)
- 第3回 演 題 「鉄道連隊演習線の盛衰とその遺産」
 対 象 者 一般
 開催月日 平成27年9月13日(日)
 内 容 戦前、津田沼～鎌ヶ谷～松戸間に敷設された陸軍鉄道連隊演習線は戦後、新京成電鉄に生まれ変わった。本講演会では鉄道連隊に関する資料、研究史、地域に残る遺構を通して、鉄道連隊の役割と実態について概観した。
 講 師 中川 洋氏(法政大学講師)
 参加人数 50人(事前応募42人、当日申込8人)

■連続講座「学芸員講演会」(博物館友の会共催)(会場:講堂・各回定員:80人)

各学芸員が専門分野について講演した。

開催月日	タイトル	講師	参加者(うち友の会会員)
平成27年 6月20日(土)	石斧と人－3万年のあゆみ－	大森 隆志	32人(19人) ※当日先着順
7月26日(日)	戦前・戦中の松戸	柏木 一朗	46人(19人) ※当日先着順
10月11日(日)	農村松戸の民俗 ムラの社会	青木 俊也	20人(16人) ※当日先着順
11月7日(土)	健脚万来 古戦場・古城跡を歩く	中山 文人	24人(7人) ※事前応募
12月13日(日)	三匹獅子舞再考	山田 尚彦	20人(13人) ※当日先着順

開催月日	タイトル	講師	参加者(うち友の会会員)
平成28年 1月17日(日)	房総の埴輪を考える	小林 孝秀	50人(24人) ※当日先着順
3月13日(日)	非文字資料とは何か -「絵引」を考える-	富澤 達三	34人(21人) ※当日先着順

(2) 講座

(各回定員:30人)

■古文書を読む(近世入門編)(会場:実習室)

対象者 一般
 開催月日 平成28年1月23日(土)～3月19日(土)の隔週土曜日(全5回)
 内 容 古文書解読の初心者を対象に、松戸地域に関わる古文書をテキストに使用して、文字の読み方や時代背景の講義を行い、古文書に親しみながら松戸の近世史を理解してもらうことを目標とした。
 講 師 富澤 達三(当館学芸員)
 応募人数 45人(※定員30人のため抽選)
 参加人数 延べ130人(①27人②25人③29人④24人⑤25人)

■古文書を読む(近世中級編Ⅰ)(会場:実習室)

対象者 一般
 開催月日 平成27年9月12日(土)～11月7日(土)の隔週土曜日(全5回)
 内 容 経験者を対象に古文書を読解し、歴史や文化を学ぶ講座。
 講 師 鈴木 雅晴氏(板橋区教育委員会生涯学習課 文化財専門員)
 応募人数 40人(※定員30人のため抽選)
 参加人数 延べ132人(①31人②27人③27人④24人⑤23人)

■古文書を読む(近世中級編Ⅱ)(会場:実習室)

対象者 一般
 開催月日 平成28年1月24日(日)～3月20日(日)の隔週日曜日(全5回)
 内 容 経験者を対象に古文書を読解し、歴史や文化を学ぶ講座。
 講 師 出口 宏幸氏(駒澤大学講師)
 応募人数 45人(※定員30人のため抽選)
 参加人数 延べ126人(①25人②26人③26人④27人⑤22人)

■中世史料を読む(会場:女性センターゆうまつど3階研修室)

対象者 一般
 開催月日 平成27年9月4日(金)～11月13日(金)の隔週金曜日(全6回)
 ※第3回のみ10月1日(木)に開催
 内 容 鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」写真版の解読を通じて、直に歴史へ触れる講座。受講者が順番に発表する形式も取り入れて、養和元年(1181)10月6日から寿永元年(1182)5月16日までを学習した。
 講 師 中山 文人(当館学芸員)
 応募人数 28人
 参加人数 延べ106人(①17人②20人③19人④19人⑤15人⑥16人)

■博物館の民俗学Ⅱ(会場:実習室)

対象者	一般
開催月日	平成27年8月29日(土)・9月12日(土)・9月26日(土)(全3回)
内容	地域の博物館である松戸市立博物館における民俗資料の調査、収集、展示などを通して、博物館民俗学の姿やその役割について考えた。
講師	青木 俊也(当館学芸員)
応募人数	19人
参加人数	延べ48人(①17人②17人③14人)

■松戸市パートナー講座(講座名:松戸の歴史を学ぼう)

実施年月日	講座内容	主催者	派遣講師	参加人数
平成27年 9月8日(火)	松戸の歴史について	八ヶ崎福寿台クラブ	柏木 一朗	18人
平成27年 10月8日(木)	松戸と五香の歴史について	南町婦人会	柏木 一朗	20人
平成27年 11月1日(日)	根木内城跡と合戦	根っ子の会(根木内歴史公園 サポーター)	中山 文人	25人
平成27年 11月10日(火)	徳川昭武と戸定邸	大金平四丁目さくらクラブ	柏木 一朗	26人

■その他講師派遣等

実施年月日	内容	主催者	派遣講師	場所	参加人数
平成27年 4月24日(木)	文化財から見た松戸 の中世寺院～おもに 本土寺から～	千葉県市町村公平委 員会連合会	中山 文人	森のホール21会議室・ 本土寺	28人
平成27年 6月13日(土)	古墳時代の日本列島 と東アジア	専修大学松戸中学校 (社会科講演会)	小林 孝秀	専修大学松戸中学校	163人
平成27年 8月2日(日)	団地生活の始まりと その後、現在	取手市埋蔵文化財 センター	青木 俊也	取手市福祉交流セン ター	50人
平成27年 8月19日(水)	戸定邸・戸定歴史館・ 松戸宿探索	千葉県教育研究会 松戸支会	綿貫 貴 (教育普及担当)	戸定邸・旧松戸宿	21人
平成27年 9月25日(金)	松戸市の遺跡につい て	埼玉県東部地区文化 財担当者会	小林 孝秀	三郷市保健センター	18人
平成27年 10月22日(金)	健脚万来 東葛古戦 場・古城跡めぐり	松戸市立博物館 友の会	中山 文人	酒井根古戦場・根木 内城跡・前ヶ崎城跡	27人
平成27年 11月4日(土)	資料からさぐる馬	牧場会 (松戸市教育委員会 生涯学習推進課支援)	富澤 達三	松戸市民会館	25人
平成27年 11月19日(木)	松戸市の歴史-昭和 の松戸-	松戸市教育委員会 生涯学習推進課	柏木 一朗	松戸市民劇場	309人
平成27年 12月19日(土)	「昔の暮らし探検」を 展示して11年	三重県総合博物館	青木 俊也	三重県総合博物館 レクチャールーム	35人
平成28年 2月23日(火)	戦後の松戸の変貌に ついて・常盤平団地 の誕生	つれづれ友の会 (松戸市教育委員会 生涯学習推進課支援)	青木 俊也	文化ホール会議室	34人

■出前授業

対 象 者 市内小学校及び同中学校
開催月日 平成27年度後半期に当該校が希望する日時
内 容 博物館からの提案により、各学芸員が自らの専門分野について、授業の一環として、要請に応えるかたちで出前授業を行う。
講 師 当館学芸員(当館教育普及担当も同行)

①松戸市立高木第二小学校

対 象 者 6年生 128人 4学級
開催月日 平成27年12月15日(火) 9時30分～12時30分
2学級合同で45分授業を実施(計2回)。
内 容 松戸の近現代のできごと(特に学校周辺)
講 師 柏木 一郎<当館学芸員>(教育普及担当も2人同行)

②松戸市立常盤平第二小学校

対 象 者 3年生 84人 3学級
開催月日 平成28年2月23日(火) 9時35分～12時15分
45分授業をそれぞれの学級で実施(計3回)。
内 容 小学3年生の下記の単元を対象にして、同じテーマで市内3校の小学校でクラス単位で実施した。詳細については下記の指導案を参照。
大単元「かわってきた人々のくらし」(18時間扱い)
小単元「古い道具と昔のくらし」(9時間扱い)
テーマ「三匹獅子舞」って何だろう～古くからつたわるげいのう」(2時間扱い)
講 師 山田 尚彦<当館学芸員>(教育普及担当も2人同行)

③松戸市立横須賀小学校

対 象 者 3年生 56人 2学級
45分授業を各学級で実施
開催月日 平成28年3月3日(火) 9時30分～12時15分
45分授業をそれぞれの学級で実施(計2回)。
内 容 上記 ②に同じ
講 師 山田 尚彦<当館学芸員>(教育普及担当も1人同行)

④松戸市立馬橋北小学校

対 象 者 3年生 84人 3学級
開催月日 平成28年3月4日(水) 10時35分～12時10分
45分授業を各学級で実施(ただし1学級は学級閉鎖。計2回)。
内 容 上記②に同じ
講 師 山田 尚彦<当館学芸員>(教育普及担当も1人同行)

過程・時間	学 習 活 動	教師の支援(○)・評価(☆)	備考(資料等)
つかむ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・HT:授業開始の挨拶 ・HT:今日の学習テーマの確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・HT:テーマを黒板に掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・HTがテーマを模造紙などで作成・各クラスを順番に回す
ここまでの 5分以内 ここから残り 5分	<p style="text-align: center;">「三匹獅子舞」って何だろう～古くからつたわるげいのう～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GT2:挨拶と自分たちの紹介及び来館のお礼・今日呼ばれたことの喜び・学芸員の紹介など ・GT1:自己紹介と今日の活動説明と本題開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○GT2から聞く態度やマナーを事前に指導。児童どうして互いに注意し合えるようにする。 ○HT:必要があればメモを取らせる。「書く・聴く」の区別を。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HTが『のびゆく松戸市』とワークシートとノートを用意させる。
調べる 30分	<p>(以下ずっとGT1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三匹獅子舞のようすを見てみよう～「どれだけ見つけられるかな」 ・もっとだいじなことを発見しよう。～「もう一度ビデオをよく見て、思い出してみましよう。」(映像を止めながら質問形式で進める)。 ・ここで質問を受け付ける。(例「いつ始まったの?毎年いつどこでやっているの?お話の内容は?何のためにやっているの?など)～すぐにGT1が答えずに、「この問いに答えられる人は?」と児童の中に返すことも必要。児童の中から望ましい考え方が出るようにしたい。予想。 ・ここまで見て感じたこと、考えたことを発表しよう(挙手で)。 ・ここまでをふまえて、最後にもう一度ビデオを見る。確認と復習。 	<ul style="list-style-type: none"> ○GT2及びHTは机間巡視・ついてこられない児童への支援 ・みつけたらしるしをつけるとともに、自分なりに答えをメモさせる。 ・2度目の視聴は、まわりと相談しながら答えを出し、プリントに書き込ませる。答え合わせは・・・? ・GT1:「なぜ」「なんで」の問いかけを尊重。できるだけ具体的な質問を出させる。 ○HTは、「感じた」と「考えた」の違いを意識して児童の反応を観察する(評価のため)。 ☆評価:社会的事象に対する知識・理解～少なくとも、むらの発展や人々のまとまりなどへの願いが込められていることを理解できる(理解しようと努めている)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・GT2及びHTは机間巡視・ついてこられない児童への支援 ・HTは児童の気持ちになって時に手を挙げてGT1に質問する。ただし、いつから始まった芸能か、ストーリーは?などは謎であることをふまえる(学芸員の願い:それを誰か児童に将来研究してほしい)。 ・大切なことは、代々この芸能を受け継ぐこと?
まとめる 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・「獅子舞を踊るときに、何が一番大へん?」「『一年が終わった』感じるのはなぜ?」を順に質問する。 ・「猿の面」を紹介・プレゼント ・GT1のまとめとHTへバトンタッチ。 ・HT:GTへのお礼の言葉(代表に) ・授業終了の挨拶(次の時間の指示) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆評価:ここも大切な評価場面 ・二つの質問の答えが出づらな場合は、次の担任の授業につなぐようにGT2が促す。GT1はここまでを総括して終了。 ・児童の代表からお礼の言葉を ・「猿の面」の配付は次時で。 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の三匹獅子舞のコーナーをGT2が宣伝する場面もあったほうが良い(ぜひとも家の方などと一緒に)。

※ 出前授業に準じるものとして、授業づくりの共同研究や授業実践等も行った。

該当する学校は次のとおり。

- ・松戸市立旭町小学校(共同研究・授業実践)
- ・松戸市立上本郷小学校(共同研究)
- ・松戸市立小金小学校(授業実践)

(3) 体験学習

■こども体験教室「親も楽しむ 米づくりと展示づくり－小学生学芸員になろう－」

(博物館友の会共催)(会場:21世紀の森と広場の水田・実習室等)

対象者 小学4～6年生

開催月日 ①平成27年5月16日(土)田植え
②7月4日(土)田の草取り・勉強会
③8月1日(土)案山子づくり
④9月19日(土)稲刈り
⑤10月3日(土)脱穀
⑥11月21日(土)竈でご飯を炊く・展示をつくる(1)
⑦12月5日(土)展示をつくる(2)
⑧12月6日(日)展示をつくる(3)
⑨平成28年1月9日(土)展示をつくる(4)
⑩1月30日(土)小学生学芸員展示解説会

内容 21世紀の森と広場内の水田で、田起こし・代かきから田植え、田の草取り、案山子づくり、刈り取り、脱穀までの一連の米づくりにおける作業を体験し、竈でご飯を炊き試食した。さらにその作業を示したパネルをつくり、学習資料展「昔のくらし探検」のなかで小学生学芸員コーナーとして展示した。なお、この体験教室には博物館友の会有志の協力を得た。

講師 青木 俊也・中山 文人(当館学芸員)・博物館友の会有志

応募人数 19人(小学生10人、保護者9人)(※定員10組20人)

参加人数 延べ145人(小学生86人、保護者59人)

(①19人②15人③19人④17人⑤17人⑥19人⑦7人⑧3人⑨10人⑩19人)

■こども体験教室「親も楽しむ 勾玉づくり」(会場:実習室)

第1回 対象者 小学生

開催月日 平成27年5月3日(日)10時～11時

講師 大森 隆志・小林 孝秀(当館学芸員)

応募人数 15組30人(※定員15組30人)

参加人数 23人(小学生13人、保護者10人)

第2回 対象者 小学生

開催月日 平成27年5月3日(日)13時30分～14時30分

講師 大森 隆志・小林 孝秀(当館学芸員)

応募人数 15組30人(※定員15組30人)

参加人数 26人(小学生15人、保護者11人)

第3回 対象者 小学生

開催月日 平成27年8月8日(土)10時～11時

講師 大森 隆志(当館学芸員)

応募人数 15組30人(※定員15組30人)

参加人数 26人(小学生15人、保護者11人)

第4回 対象者 小学生

開催月日 平成27年8月8日(土)13時30分～14時30分

講師 大森 隆志(当館学芸員)

応募人数 14組28人(※定員15組30人)

参加人数 25人(小学生14人、保護者11人)

内容 縄文時代の装身具作りをとおして、当時の生活技術の一端を知ってもらった

■こども体験教室「親も楽しむ 土鈴づくり」(会場:実習室)

- 第1回 対象者 小学生
開催月日 平成27年8月1日(土)10時～11時
講師 小林 孝秀(当館学芸員)
応募人数 15組30人(※定員15組30人)
参加人数 24人(小学生14人、保護者10人)
- 第2回 対象者 小学生
開催月日 平成27年8月1日(土)13時30分～14時30分
講師 小林 孝秀(当館学芸員)
応募人数 15組30人(※定員15組30人)
参加人数 25人(小学生14人、保護者11人)
内 容 縄文時代の土鈴作りをとおして、当時の生活技術の一端を知ってもらった。

■こども体験教室「親も楽しむ からくりおもちゃ 初級編 パタパタをつくろう」
(博物館友の会共催)(会場:実習室)

- 第1回 対象者 小学生
開催月日 平成27年8月23日(日)10時～12時
講師 山田 尚彦(当館学芸員)・博物館友の会有志
応募人数 6組12人(※定員10組20人)
参加人数 11人(小学生6人、保護者5人)
- 第2回 対象者 小学生
開催月日 平成27年8月23日(日)13時30分～15時30分
講師 山田 尚彦(当館学芸員)・博物館友の会有志
応募人数 7組14人(※定員10組20人)
参加人数 11人(小学生6人、保護者5人)
- 第3回 対象者 小学生
開催月日 平成27年8月30日(日)10時～12時
講師 山田 尚彦(当館学芸員)・博物館友の会有志
応募人数 6組12人(※定員10組20人)
参加人数 13人(小学生8人、保護者5人)
- 第4回 対象者 小学生
開催月日 平成27年8月30日(日)13時30分～15時30分
講師 山田 尚彦(当館学芸員)・博物館友の会有志
応募人数 7組14人(※定員10組20人)
参加人数 4人(小学生2人、保護者2人)
内 容 江戸時代からある郷土玩具「パタパタ」を作って遊ぶ。作品は持ち帰ることができる。

■こども体験教室「親も楽しむ からくりおもちゃ 応用編 からくり屏風をつくろう」
(博物館友の会共催)(会場:実習室)

- 対象者 小学4～6年生
開催月日 平成27年11月3日(火・祝)10時～12時
講師 山田 尚彦(当館学芸員)・博物館友の会有志
応募人数 事前応募2組4人、当日申込4人(※定員10組20人)
参加人数 8人(小学生5人、保護者3人)
内 容 郷土玩具パタパタの応用編として、からくり屏風を作って遊ぶ。
作品は持ち帰ることができる。

■体験教室「自分でつくる糸と布」(博物館友の会共催)(会場:実習室)

対象者 一般
開催月日 ①平成28年1月26日(火)糸つむぎ
②平成28年1月28日(木)機織り
講師 青木 俊也(当館学芸員)・はたくさの会会員(博物館友の会サークル)
応募人数 14人(※定員8人のため抽選)
参加人数 延べ16人(①8人②8人)
内容 綿から糸車を使って糸を紡ぎ、高機で織った。

■体験教室「裂き織りをしてみませんか」(博物館友の会共催)(会場:実習室)

※各日、午前に3回、午後に2回(9時45分～10時35分、10時35分～11時25分、11時25分～12時15分)
(13時～13時50分、13時50分～14時40分)、合わせて5回ずつ行った。

第1回～第5回

対象者 一般
開催月日 平成28年2月9日(火)
講師 青木 俊也(当館学芸員)・はたくさの会会員(博物館友の会サークル)
応募人数 各回2人(※各回定員2人)
参加人数 延べ10人(各回2人)

第6回～第10回

対象者 一般
開催月日 平成28年2月10日(水)
講師 青木 俊也(当館学芸員)・はたくさの会会員(博物館友の会サークル)
応募人数 各回2人(※各回定員2人)
参加人数 延べ10人(各回2人)

第11回～第15回

対象者 一般
開催月日 平成28年2月11日(木・祝)
講師 青木 俊也(当館学芸員)・はたくさの会会員(博物館友の会サークル)
応募人数 各回2人(※各回定員2人)
参加人数 延べ10人(各回2人)
内容 擦り切れたりして使えなくなった布を裂いて新しい布に再生する先人の知恵を体験した。

■昔のくらし体験教室「自分でつくる糸と布」(博物館友の会共催)(会場:実習室)

対象者 3年生以上の小学生
開催月日 ①平成27年7月22日(水)糸紡ぎ
②7月24日(金)糸染め下処理
③7月25日(土)糸染め
④7月28日(火)機織り
⑤7月29日(水)製作(作品作り)
講師 青木 俊也(当館学芸員)・はたくさの会会員(博物館友の会サークル)
応募人数 9人(※定員8人のため抽選)
参加人数 延べ36人(①7人②8人③7人④7人⑤7人)
内容 綿から糸車を使って糸を紡ぎ、その糸を草木染めして、高機で織った。そして、織り上げた布でポシェットなどの作品を製作した。

■昔のくらし体験教室「風呂敷でつつんでみよう」(博物館友の会共催)(会場:企画展示室)

第1回～第11回

対象者 学習資料展「昔のくらし探検」観覧者
開催月日 ①平成28年1月16日(土)②23日(土)③30日(土)④2月6日(土)⑤13日(土)⑥20日(土)⑦27日(土)⑧3月5日(土)⑨12日(土)⑩19日(土)⑪26日(土)
講師 博物館友の会有志
参加人数 延べ274人(子ども155人、一般119人)
(①36人②9人③32人④38人⑤34人⑥18人⑦28人⑧24人⑨21人⑩8人⑪26人)
(※当日先着順)
内容 四角い物、丸い物、瓶を風呂敷で包んで、昔のくらしの一端を体験した。

■昔のくらし体験教室「天秤棒で桶を担いでみよう」(博物館友の会共催)(会場:企画展示室)

第1回～第11回

対象者 学習資料展「昔のくらし探検」観覧者
開催月日 ①平成28年1月16日(土)②23日(土)③30日(土)④2月6日(土)⑤13日(土)⑥20日(土)⑦27日(土)⑧3月5日(土)⑨12日(土)⑩19日(土)⑪26日(土)
講師 博物館友の会有志
参加人数 延べ247人(子ども184人、一般63人)
(①34人②8人③28人④26人⑤34人⑥16人⑦31人⑧15人⑨19人⑩19人⑪17人)
(※当日先着順)
内容 天秤棒で桶を担いで、昔のくらしの一端を体験した。

■昔のくらし体験教室「紙芝居と昔の遊びを楽しむ日」

(博物館友の会共催)(会場:縄文の森広場、森の工芸館、企画展示室)

対象者 子どもと一般
開催月日 ①平成28年3月20日(日)11時～15時
②平成28年3月27日(日)11時～15時
講師 紙芝居 峯岸 照恭氏(大江戸ヤッサン一座代表)
昔の遊び 友の会有志
参加人数 延べ690人(子ども359人、一般331人)
(①299人(紙芝居152人(子ども50人、一般102人)、昔の遊び147人(子ども90人、一般57人))
②391人(紙芝居169人(子ども72人、一般97人)、昔の遊び222人(子ども147人、一般75人))
(※当日先着順)
内容 紙芝居とメンコ、コマなどの遊びを行って、「昔のくらし」における子どもの世界を楽しんだ。

■中学生、高校生縄文土器に挑戦・作品展

①中学生の部

対象者 松戸市内中学校美術部員
 開催月日 平成27年7月29日(水)
 内容 縄文土器をモチーフに絵を描くという企画を通じて、松戸市の縄文時代の生活に理解を深めるとともに、縄文土器の造形的な美しさを表現することで、時代を超えた美的価値を味わう機会とした。作品は企画展示室ロビーに展示した。
 講師 市内中学校美術科教員
 参加人数 9人
 作品展開催月日 平成27年8月25日(火)～9月6日(日)



②高校生の部

対象者 松戸市立松戸高校生徒
 開催月日 平成27年8月5日(水)
 内容 上記①に同じ。
 講師 市立松戸高校美術科教員
 参加人数 10人
 作品展開催月日 平成27年9月8日(火)～9月20日(日)

■小学生夏休み自由課題相談会

対象者 小学校1年生～6年生
 開催月日 平成27年8月2日(日) 10時～16時
 内容 館内の実習室において、小学校の夏休みの自由課題のうちポスターや絵画の制作と松戸市の歴史をテーマにしたレポート作成に関する相談を受け付ける活動を行った(当日中学生からも相談があった)。
 講師 松戸市立小中高等学校所属の造形教育関係者(7人)
 松戸市内小中学校所属の社会科教育関係者(4人)
 当館教育普及担当(2人)
 参加人数 16人(延べ人数: 図工と歴史の両方に参加した児童がいたため)
 造形教育関係 8人
 (内訳: 小学校1年生2人・同3年生2人・同4年生2人・同5年生1人・同6年生1人)
 社会科教育関係 8人
 (内訳: 小学校3年4人・同6年生1人・中学校1年生1人・同2年生2人)
 備考 この取り組みに関連して、同年9月以降、松戸市立八ヶ崎小学校から17点、同名和ヶ谷中学校から4点の児童・生徒の夏休み自由課題作品が寄せられた。それぞれの作品について、各学芸員のコメントを一枚のシートにまとめ、その努力や成果を評価した。



■松戸歴史アドベンチャー部隊

松戸の歴史を解き明かす冒険の旅！(主催:(公社)松戸青年会議所)

対象者 松戸市内在学の小学3年・4年生と保護者

開催月日 平成27年7月26日(日)～27日(月)

(1)キャンプ事業

日時 7月26日(日)～27日(月)

場所 木漏れ陽の森(バーベキュー場・
野外キャンプ練習場)

(2)ナイトミュージアム

日時 7月26日(日)

場所 松戸市立博物館

(3)専門の講師による講演会

日時 7月26日(日)

場所 松戸市立博物館 講堂

講師 石戸 奈々子氏(慶応義塾大学准教授)

講演内容 子どもたちの主体性を育成するための子どもたちとの接し方について

参加人数 120人(小学生60人、保護者60人)

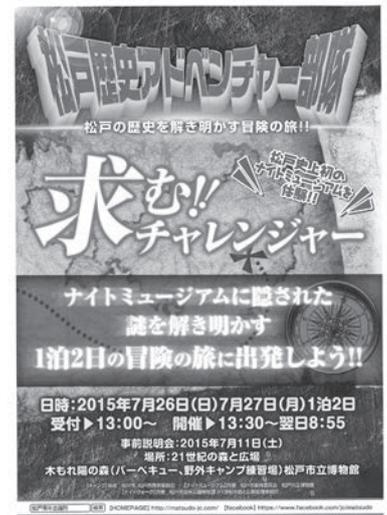
※(3)は保護者のみ参加

内容 ①子どもたちが自発的に行動することの喜びを実感するとともに、感動を共有し健全な心を育むために、「一生懸命にやればできる」ことを体験できるキャンプ事業や、ナイトミュージアムにおいて松戸の歴史を探る冒険の事業
②子どもの父又は母も参加する体験事業
③子どもたちの自らのやりたいことを実現することのできる人間性をテーマにして「誰かがやってくれる」という意識では成立しない設えを行う

【キャンプ】後援:松戸市、松戸市教育委員会

【ナイトミュージアム】共催:松戸市教育委員会、松戸市立博物館

【ナイトウォーク】共催:松戸市公園緑地課、21世紀の森と広場管理事務所



■松戸PTA連絡協議会 研修会

(松戸市教育委員会生涯学習推進課・博物館連携事業)(会場:講堂)

対象者 松戸市PTA連絡協議会会員

開催月日 平成28年3月25日(金) 9時～15時

参加人数 80人

内容 松戸市PTA連絡協議会会員を対象にした研修会で、博物館見学を実施した。

■「春のイベント お笑いライブと博物館見学」

(松戸市子どもわかもの課(常盤平児童福祉館)・博物館連携事業)(会場:講堂)

対象者 子ども及び一般

開催月日 平成28年3月26日(土) 13時30分～15時

①13時30分～14時30分:お笑いライブ

②お笑いライブ終了後に展示室を自由見学

出演者 ギャルズ・カシスプリン・セプテンバー・オジニャン&ノブニャン&愉快的仲間達

参加人数 80人(子ども60人、一般20人)

内容 常盤平児童福祉館が企画し、博物館が協力して実施するプログラム。太田プロダクションの芸人による「お笑いライブ」と博物館見学をセットにして実施した。

(4) ミュージアムシアター・プレイルーム

■ミュージアムシアター

公共上映の権利を有する映像ソフトを月替わりで毎日、講堂において定時上映した。ただし講演会等の開催時には、上映を中止した。

上映時間 午前11時・午後1時15分・3時15分

※平日の午前11時上映分は『平日午前11時の名画座』として、過去に上映した映像ソフトの中から好評だったものを上映した。

※6月23日～6月28日は燻蒸に伴う休館のため、上映していない。

ミュージアムシアター

上映日	映像タイトル	上映日数	観覧者数	1日平均
H27/4/1～30	司馬遼太郎と城を歩く6 －仙台城・長浜城・郡山城・中津城－	25日	646人	25人
5/1～31	維新政府・北国への挑戦 －東北・北陸の近代化遺産－	26日	1,324人	50人
6/2～30	山倉の鮭祭り(千葉県指定無形民俗文化財シリーズ)	19日	321人	16人
7/1～31	モノづくりニッポンの礎 －中部・東海の近代化遺産－	27日	516人	19人
8/1～30	敗戦と占領下の日本 －映像が語る戦後の暮らし－	26日	759人	29人
9/1～30	おふくろのバス旅行 昭和30年代の日本・家族の生活(農村のくらし編)	25日	837人	33人
10/1～31	古墳時代1 森浩一が語る日本の古代 第5巻	27日	297人	11人
11/1～29	司馬遼太郎と城を歩く7 －清洲城・浜松城・丸岡城・佐賀城－	25日	524人	20人
12/1～27	豆腐見聞録 －日本人の重要な蛋白供給源となった食品－	23日	259人	11人
H28/1/5～31	大島紬 日本の染めと織4	23日	244人	10人
2/2～28	四国遍路－八十八カ所めぐりと接待－(ふるさとの伝承25)	23日	366人	15人
3/1～31	おやつ 昭和30年代の日本・家族の生活(都会の子どもたち編)	26日	191人	7人
H27/4/1～H28/3/31の合計値・平均値		295日	6,284人	21人

平日午前11時の名画座

上映日	映像タイトル	上映日数	観覧者数	1日平均
H27/4/1～30	司馬遼太郎と城を歩く 1 －大阪城・小田原城・備中松山城・熊本城－	25日	111人	4人
5/1～31	司馬遼太郎と城を歩く 2 －弘前城・名古屋城・高知城・彦根城－	26日	336人	12人
6/2～30	司馬遼太郎と城を歩く 3 －松山城・宇和島城・首里城・姫路城－	19日	231人	12人
7/1～31	伊勢神宮－生命の森－	27日	139人	5人
8/1～30	NHKスペシャル 大日本帝国のアキレス腱 －太平洋・シーレーン作戦－	26日	254人	9人
9/1～30	〈大モンゴルⅡ〉蒼き狼 チンギス・ハーン	25日	177人	7人
10/1～31	〈珠玉の仏教美術2〉鎮護国家の美しき仏	27日	118人	4人
11/1～29	〈日本の近代化遺産第1巻〉絹から始まった産業革命－北関東の近代化遺産－	25日	110人	4人
12/1～27	異なる民、異なる文化 神秘の島バリ	23日	54人	2人
H28/1/5～31	〈菅江真澄の旅 第1巻〉真澄の生涯	23日	101人	4人
2/2～28	NHKスペシャル 学徒兵 許されざる帰還 －陸軍特攻隊の悲劇－	23日	146人	6人
3/1～31	〈珠玉の仏教美術1〉仏教伝来と聖徳太子	26日	90人	3人
H27/4/1～H28/3/31の合計値・平均値		295日	1,867人	6人

■プレイルーム

年齢を問わず、いつでも来館者が楽しめる場所として無料で開放している。体験プログラムとして、①やってみようアンギン編み、②つくってみようコースター、③着てみようアンギン編みの服、④つかってみよう糸車の4種類を実施した。また、「常設展示ぬりえ！」を設け、子どもからおとなまで、誰でもぬりえを楽しんでもらえるようにした。

平成27年度利用者総数 9,136人

(5) 館内公開

対象者	一般
開催月日	①平成27年5月4日(月・祝)10:00～11:00 ②平成27年8月9日(日) 10:00～11:00
内容	博物館の多様な活動を理解していただくため、通常は非公開のバックヤード(車庫、荷解梱包室、燻蒸室、学芸員室、スタジオ、機械室、収蔵庫)を紹介・解説した。
講師	①青木 俊也・小林 孝秀・富澤 達三(当館学芸員) ②大森 隆志(当館学芸員)
応募人数	①5人②4人(※各回定員15人)
参加人数	延べ8人(①5人②3人)

(6) ガイドツアー(常設展示解説)

「人類の登場」から「都市へのあゆみ」まで2名の展示解説員によるリレー方式の解説会を毎日午前10時と午後2時から行った(解説時間約30分間)。

なお、団体観覧者においては適宜開催し、平成27年度は93回行い500人が参加した。

(7) 情報提供

■ 閲覧コーナー

博物館利用者の学習支援のため、当館の購入図書及び関係諸機関との交換図書の閲覧サービスを行なっている。蔵書の一部は開架で提供している。

・蔵書数(平成28年3月31日現在)

開架図書冊数 1,158冊

閉架図書冊数 36,610冊

・閉架図書の利用状況(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

利用人数: 68人

利用冊数: 154冊

・視聴覚資料数(平成28年3月31日現在)

ビデオテープ 408巻

C D 85枚

D V D 47枚

■ 刊行物

平成27年度の刊行物はつぎの通りである。

・松戸市立博物館年報 第22号

A 4版65頁(本文65頁) 500部 平成27年8月31日

・松戸市立博物館紀要 第23号

A 4版60頁(本文54頁) 800部 平成28年3月31日

■ ミュージアムショップ

受付横にミュージアムショップを開設し、刊行物とミュージアムグッズを販売している。

ミュージアムグッズ			
絵はがき	8種類(各80円)、5種類(各100円)	クリアホルダー	3枚セット 100円
テレホンカード	4種類 各700円	ミニクリアホルダー(景清・阿沙丸・土偶)	各200円
埴輪ぬいぐるみキーホルダー(馬・人)	各350円	3枚セット	500円
土鈴セット	200円	一筆箋(シルクロード・朱印状)	各300円
メモ帳	100円	縄文土器レプリカ 深鉢形土器3種類	9,000円
虚無僧ストラップ(青・赤・緑)	各750円		～10,000円
虚無僧錦絵・絵はがきセット	350円	クリアホルダー(コシッキー1体・3体)	各150円
図		録	
改訂版 常設展示図録(平成16年度)	1,500円	企画展 中世の東葛飾	1,200円
開設記念展 松戸写真館	完売	－いのり・くらし・まつりごと－(平成13年度)	
－カメラがとらえた松戸の人々－(平成5年度)		企画展 弥生人の脳発見!	完売
特別展 縄文土器の世界(平成5年度)	1,000円	－とっとり青谷上寺地遺跡展－(平成14年度)	
企画展 救いの民俗	完売	企画展 はにわの十字路	1,000円
－地獄極楽冥土の旅－(平成6年度)		－古代東国の交流と地域性－(平成14年度)	
特別展 馬と牧	完売	特別展 川の道 江戸川(平成15年度)	1,000円
－かつて松戸は牧場だった－(平成6年度)		企画展 昔のくらし探検(松戸版)(平成16年度)	
企画展 稲と魚	900円		500円
－水田をめぐる漁・猟・採集－(平成7年度)		企画展 ペルシャ文明の曙	1,000円
特別展 古墳時代の飾り馬	完売	－文明の基層を探る－(平成17年度)	
－馬利用のはじまりをさぐる－(平成7年度)		企画展 戦国の城をさぐる	1,000円
企画展 小金城主高城氏	1,000円	－松戸市根本内歴史公園開園記念－(平成18年度)	
(平成8年度(平成13年度再版))		企画展 大名の旅	1,000円
特別展 シルクロードとガンダーラ(平成8年度)	1,500円	－本陣と街道－(平成19年度)	
		特別展 縄文時代の東・西(平成20年度)	1,000円
特別展 福神の世界(平成9年度)	完売	企画展 人生儀礼の世界(平成21年度)	1,000円
特別展 ネアンデルタール人の復活(平成10年度)	1,000円	企画展 湯浅喜代治考古コレクション	
		－夢を追った70年－(平成22年度)	1,000円
企画展 水戸道中	完売	企画展 東日本の古墳と渡来文化	1,000円
－宿場と旅人－(平成10年度)		－海を越える人とモノ－(平成24年度)	

図		録	
特別展 貝塚を考える(平成10年度)	1,200円	特別展 松戸の発掘60年史 - 市内の遺跡を再検討 - (平成25年度)	1,000円
企画展 戦後松戸の生活革新 - 新しい暮らし方へのあこがれ - (平成12年度)	完売	企画展 Plastic ? / Plastic ! - 高度経済成長とプラスチック - (平成26年度)	1,000円
紀		要	
松戸市立博物館紀要 第1号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第13号	400円
松戸市立博物館紀要 第2号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第14号	500円
松戸市立博物館紀要 第3号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第15号	500円
松戸市立博物館紀要 第4号	700円	松戸市立博物館紀要 第16号	600円
松戸市立博物館紀要 第5号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第17号	500円
松戸市立博物館紀要 第6号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第18号	500円
松戸市立博物館紀要 第7号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第19号	400円
松戸市立博物館紀要 第8号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第20号	500円
松戸市立博物館紀要 第9号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第21号	600円
松戸市立博物館紀要 第10号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第22号	500円
松戸市立博物館紀要 第11号	500円	松戸市立博物館紀要 第23号	400円
松戸市立博物館紀要 第12号	500円		
資料集・報告書			
松戸市立博物館歴史資料集1 東漸寺所蔵資料目録	700円	松戸市立博物館歴史資料集2 青木源内家所蔵資料目録追加	700円
松戸市立博物館報告書1 松戸の三匹獅子舞(VTR含む)	5,400円	松戸市立博物館報告書4 松戸旧宿場町建築物調査報告書	2,100円
松戸市立博物館報告書2 縄文時代以降の松戸の海と森の復元	1,200円	松戸市立博物館映像記録VTR 送り大師 東葛飾印旛大師講の人々	完売
松戸市立博物館報告書3 松戸市民家調査報告書	完売	松戸市立博物館報告書5 農村松戸の民俗-1960年代調査の記録-	800円
松戸市史			
松戸市史 上巻	完売	松戸市古文書目録(三)「本土寺文書他」	2,000円
松戸市史 上巻(改訂版)「原始・古代・中世」	3,000円	松戸市古文書目録(四)「秋谷家文書」	2,500円
松戸市史 中巻「近世」	5,500円	松戸市史考古資料集1 大谷口遺跡の土師器と須恵器	300円
松戸市史 下巻(一)「明治」	4,000円	松戸市史考古資料集2 千駄堀寒風台遺跡出土遺物を中心とする 考古資料	300円
松戸市史 下巻(二)「大正・昭和」	3,900円	松戸市史考古資料集3 関場遺跡第2地点出土旧石器資料報告 寒風台遺跡出土石器再整理報告	300円
松戸市史史料編(一)「大熊家文書」	2,800円	松戸市史考古資料集4 上本郷遺跡出土の縄文時代後期から晩期を 中心とする考古資料	400円
松戸市史史料編(二)「近世諸家文書」	完売		
松戸市史史料編(三)「萬満寺史料」	3,500円		
松戸市史史料編(四)「本土寺史料」	5,500円		
松戸市史史料編(五)上「秋谷家文書」	8,050円		
松戸市史史料編(五)下「秋谷家文書」	7,500円		
松戸市史史料編(六)「東漸寺史料」	5,000円		
松戸市古文書目録(一)「諸家文書」	1,100円		
松戸市古文書目録(二)「諸家文書」	1,500円		

(8) 博物館実習

募集要項を「広報まつど」及び当館ホームページ(年報奥付にアドレスを記載)に掲載して募集したところ8名の応募があり、書類審査の結果8名全員を受け入れることにした。実習生の氏名・所属及び実習内容は以下のとおり。

平成27年度博物館実習生

No.	班	大学名	氏名	学部各科専攻
1	第1班	法政大学	遠藤 瑚弓	人間環境学部人間環境学科4年
2		東洋大学	原田 和将	文学部史学科4年(日本古代史)
3		目白大学	堺 裕美	社会学部メディア表現学科4年
4		帝京大学	佐藤もみじ	文学部史学科4年(日本中世史)
5	第2班	跡見学園女子大学	米田 陽香	文学部人文学科4年(日本思想史)
6		学習院大学	佐藤 真鈴	文学部史学科4年(日本近世史)
7		城西国際大学	高木 聡	国際人文学部国際文化学科4年
8		日本大学	加藤 彩夏	文理学部哲学科4年(美学)

(1) 合同実習

月 日	曜日	午 前	午 後
7月26日	日	実習内容説明、館内バックヤード見学	展示見学、質疑応答

(2) 個別実習

第1班 7月30日(木)～8月5日(水)

月 日	曜日	午 前	午 後
7月30日	木	流山市立博物館見学	松戸市戸定歴史館見学
7月31日	金	こども体験教室 「親も楽しむ 土鈴づくり」準備	こども体験教室 「親も楽しむ 土鈴づくり」準備
8月1日	土	こども体験教室 「親も楽しむ 土鈴づくり」補助	こども体験教室 「親も楽しむ 土鈴づくり」補助
8月2日	日	近世・近代文書整理	近世・近代文書整理
8月3日	月	休館日	休館日
8月4日	火	来館者空間調査・研究	来館者空間調査・研究
8月5日	水	来館者空間研究の発表	まとめ・レポート執筆

第2班 8月6日(木)～8月12日(水)

月 日	曜日	午 前	午 後
8月6日	木	近世・近代文書整理	近世・近代文書整理
8月7日	金	こども体験教室 「親も楽しむ 勾玉づくり」準備	こども体験教室 「親も楽しむ 勾玉づくり」準備
8月8日	土	こども体験教室 「親も楽しむ 勾玉づくり」補助	こども体験教室 「親も楽しむ 勾玉づくり」補助
8月9日	日	流山市立博物館見学	松戸市戸定歴史館見学
8月10日	月	休館日	休館日
8月11日	火	来館者空間調査・研究	来館者空間調査・研究
8月12日	水	来館者空間研究の発表	まとめ・レポート執筆

(9) 教員・生徒の職場勤労体験の受け入れ

学校からの個別依頼にもとづき、博物館の活用等を目的とした小中学校教員対象の体験研修と、中学校・小学校生徒の勤労観・社会観を育成するための職場体験学習を実施した。なお今年度は前者の申込みは無かった。

[中学生]

〈職場体験学習〉

平成27年11月19日(木) 日暮綺子・高橋佳奈(小金南中学校2年生)
11月25日(水) 江田輝碩・堺洋人(河原塚中学校2年生)
11月26日(木) 芳賀直也・中野多恵(牧野原中学校2年生)
11月27日(金) 宇田川健太・水留晴香(第四中学校2年生)

〈総合学習講座〉

11月4日(水) 橘内里緒・篠澤風輝・星野響・清野駿介・石井ほの夏・
仲里花乃・宇佐見悠奈(和名ヶ谷中学校2年生)

[小学生]

〈職場体験学習〉

平成27年6月18日(木) 伊藤宏透・柏木直太郎・大塚亮之介・関根未織
(高木小学校6年生)及び随行保護者1名

4 調査・研究

(1) 研究員の活動

村井 良子 (プランニング・ラボ)

研究テーマ 子ども向け展示の研究

常設展示室及び学習資料展「昔のくらし探検」に対する展示評価をもとに、今後の展示リニューアル準備の一環として、子ども向け展示の計画を研究した。具体的には、(仮称)子ども歴史博物館の構想計画について、分析を行った。

(2) 学芸員の活動

山田 尚彦 専攻分野:日本民俗学・文化人類学

研究テーマ:「地域社会における民俗芸能の継承と葛藤に関する研究」

「近代知識の大衆化に関する歴史社会学的研究」

[年間活動]

- ・講演会講師 学芸員講演会⑤「三匹獅子舞再考」(平成27年12月13日)
- ・こども体験教室講師「親も楽しむからくりおもちゃ〈初級編〉パタパタをつくろう」(4回・平成27年8月23日、8月30日)
- ・こども体験教室講師「親も楽しむからくりおもちゃ〈応用編〉からくり屏風をつくろう」(1回・平成27年11月3日)

[外部機関等協力活動]

- ・パネリストとして口頭発表及び討論「民俗展示の不可能性(?)」(日本民俗学会第882回談話会「民俗展示の可能性」会場:成城大学、平成27年9月13日)
- ・出前授業「「三匹獅子舞」ってなんだろう～古くからつたわるげいのう」(松戸市立常盤平第二小学校 平成28年2月23日)
- ・同上(松戸市立横須賀小学校 平成28年3月3日)
- ・同上(松戸市立馬橋北小学校 平成28年3月4日)
- ・千葉大学非常勤講師「博物館資料論A」(平成26年10月1日～平成27年3月31日)

[執筆]

- ・資料紹介「1961～1962年ごろの東京都中央区銀座「並木通り」を写した写真」
『松戸市立博物館紀要』第23号 松戸市立博物館 平成28年3月31日

[所属学会]

日本文化人類学会、日本民具学会、相模民俗学会、地方史研究協議会、文化資源学会、日本生活学会、日本風俗史学会、日本家政学会、日本写真学会、メディア史研究会、情報知識学会、文化財保存修復学会、American Anthropology Association

中山 文人 専門分野:日本中世史

研究テーマ:「関東中世史の研究」

[年間活動]

- ・講演会講師 学芸員講演会④「健脚万来 古戦場・古城跡を歩く」(平成27年11月7日)
- ・講座講師「中世史料を読む」(6回・平成27年9月4日～11月13日)
- ・こども体験教室講師「親も楽しむ 米づくりと展示づくりー小学生学芸員になろうー」(10回・平成27年5月16日～平成28年1月30日)

[外部機関等協力活動]

- ・講演会講師「文化財から見た松戸の中世寺院～おもに本土寺から～」(千葉県市町村公平委員会連合会、会場:松戸市森のホール21大会議室及び本土寺境内、平成27年4月24日)

- ・講演会講師「健脚万来 東葛古戦場・古城跡めぐり」(松戸市立博物館友の会主催見学会、平成27年10月22日)

[執筆]

- ・「小金城、本土寺と周辺の世界」『小金地域の歴史』 小金地域の歴史編集委員会 平成27年

[所属学会]

歴史学研究会、日本史研究会、地方史研究協議会

青木 俊也 専門分野:民俗学

研究テーマ「戦後生活史展示の研究」「葬墓習俗の研究」

[年間活動]

- ・学習資料展「昔のくらし探検」担当(平成28年1月13日～3月27日)
- ・講演会講師 学芸員講演会③「農村松戸の民俗 ムラの社会」(平成27年10月11日)
- ・講座講師「博物館の民俗学Ⅱ」(3回・平成27年8月29日～9月26日)
- ・こども体験教室講師「親も楽しむ 米づくりと展示づくり—小学生学芸員になろう—」(10回・平成27年5月16日～平成28年1月30日)
- ・昔のくらし体験教室講師「自分でつくる糸と布」(5回・平成27年7月22日～7月29日)
- ・体験教室講師「自分でつくる糸と布」(2回・平成28年1月26日、1月28日)
- ・体験教室講師「裂き織りをしてみませんか」(15回・平成28年2月9日～11日)

[外部機関等協力活動]

- ・講演会講師「団地生活の始まりとその後、現在」(取手市埋蔵文化財センター主催企画展「取手市の昭和時代」関連講演会、会場:取手市福祉交流センター、平成27年8月2日)
- ・講演会講師「『昔のくらし探検』を展示して11年」(三重県総合博物館企画展「くらしの道具～いま・むかし～」関連講演会、会場:三重県総合博物館レクチャールーム、平成27年12月19日)
- ・講演会講師「戦後松戸の変貌について・常盤平団地の誕生」(つれづれ友の会主催、松戸市教育委員会生涯学習推進課支援、会場:文化ホール会議室、平成28年2月23日)
- ・立教大学兼任講師 学校・社会教育講座「民俗学」1(平成27年4月1日～平成27年8月31日)
- ・神奈川大学大学院歴史民俗資料学専攻科非常勤講師「博物館民俗資料学特論」「博物館歴史資料学特論」(平成27年9月1日～平成28年3月31日)

[執筆]

- ・「戦後生活を展示する意味を考える」『松戸市立博物館紀要』第23号 松戸市立博物館 平成28年3月31日

[所属学会]

日本民俗学会、日本民具学会、地方史研究協議会、日本展示学会

大森 隆志 専門分野:考古学

研究テーマ:「中世地下式坑の考古学的研究」

[年間活動]

- ・館蔵資料展「シルクロードとガンダーラ」担当(平成27年4月25日～6月7日)
- ・講演会講師 学芸員講演会①「石斧と人—3万年のあゆみ」(平成27年6月20日)
- ・こども体験教室講師「親も楽しむ 勾玉づくり」(4回・平成27年5月3日、8月8日)

[執筆]

- ・「コレクション 松戸市立博物館」『博物館研究』第50巻第11号 日本博物館協会 平成27年10月25日

[所属学会]

日本考古学協会、日本考古学会、考古学研究会、縄文時代文化研究会、山梨県考古学協会、文化経済学会〈日本〉、日本アートマネージメント学会

柏木 一郎 専門分野:日本近代史

研究テーマ「近代日本政治外交史・近代日本軍事史の研究」

[年間活動]

- ・館蔵資料展「松戸市平和祈念展」担当(平成27年7月18日～9月23日)
- ・講演会講師 学芸員講演会②「戦前・戦中の松戸」(平成27年7月26日)

[外部機関等協力活動]

- ・講演会講師 生涯学習推進課「松戸市の歴史－昭和の松戸－」(松戸市民会館 平成27年11月19日)
- ・出前授業「松戸の近現代のできごと－学校周辺を中心に－」(松戸市立高木第二小学校 平成27年12月15日)
- ・法政大学通信教育部兼任講師「日本近代史」(平成27年4月1日～7月31日)
- ・法政大学キャリアデザイン学部兼任講師「教職日本史」(平成27年9月1日～28年3月31日)

[執筆]

- ・「松戸市立博物館所蔵「松戸町報」について」『松戸市立博物館紀要』第23号 松戸市立博物館 平成28年3月31日
- ・(分担執筆)『アジア太平洋戦争辞典』吉田裕ほか編 吉川弘文館 平成27年10月28日

[所属学会]

歴史学会、明治維新史学会、東アジア近代史学会、日本台湾学会、洋学史学会、法政大学史学会

小林 孝秀 専門分野:日本考古学・東アジア考古学

研究テーマ:「古墳時代東国社会の研究」「古代東アジア交流史の研究」

[年間活動]

- ・講演会講師 学芸員講演会⑥「房総の埴輪を考える」(平成28年1月17日)
- ・こども体験教室講師「親も楽しむ 勾玉づくり」(2回、平成27年5月3日)
- ・こども体験教室講師「親も楽しむ 土鈴づくり」(2回、平成27年8月1日)

[外部機関等協力活動]

- ・講演会講師「古墳時代の日本列島と東アジア」(専修大学松戸中学校社会科講演会、会場:専修大学松戸中学校高等学校校内多目的ホール、平成27年6月13日)
- ・講演会講師「松戸市の遺跡について」(埼玉県東部地区文化財担当者会)会場:三郷市保健センター分室、平成27年9月25日)
- ・パネラー(討論)「シンポジウム 積石塚・渡来人研究の成果と課題」(積石塚・渡来人研究会設立記念総会、会場:帝京大学文化財研究所、平成27年12月12日)
- ・専修大学文学部非常勤講師「歴史学A(通年)/歴史学201(前期)・歴史学202(後期)/歴史の視点(前期)・歴史と地域・民衆(後期)」(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

[執筆]

- ・「千葉県松戸市検出の環濠と方形周溝墓－下総北西部における「古墳出現期」の様相から－」『駒澤考古』第40号 駒澤大学考古学研究室創立50周年記念号 駒澤大学考古学研究室 平成27年6月30日
- ・「東京湾沿岸における渡来系文物の様相」『シンポジウム 積石塚・渡来人研究の成果と課題』、積石塚・渡来人研究会設立記念総会・シンポジウム資料、平成27年12月12日

[所属学会]

日本考古学協会、日本考古学会、考古学研究会、東北・関東前方後円墳研究会、茨城県考古学協会、埴輪研究会、韓国考古学会、嶺南考古学会、専修大学歴史学会

富澤 達三 専攻分野:日本近世史・歴史民俗資料学

研究テーマ:「図像資料による江戸後期から明治初頭の常民文化の研究」「動物から探る松戸の近世」

[年間活動]

- ・街づくり部都市計画課「水とみどりと歴史の回廊マップ」(南小金地区)の江戸時代部分を執筆
- ・講座講師「古文書を読む(近世入門編)」担当(全5回、平成28年1月23日～3月19日の隔週土曜日)

- ・講演会講師 学芸員連続講演会⑦「非文字資料とは何か -「絵引」を考える-」(平成28年3月13日)

[外部機関等協力活動]

- ・講演会講師「資料からさぐる馬」(牧場会主催。平成27年11月4日、会場:市民会館)
- ・パネリストとして口頭発表及び討論「大地震と江戸庶民 - ナマズ・鹿島信仰・鯰絵 -」(第11回茨城大学人文学部シンポジウム「自然災害に学ぶ茨城の歴史 - 被災の記憶と教訓を未来へ -」茨城大学、平成27年12月5日)

[所属学会]

地方史研究協議会、関東近世史研究会、明治維新史学会、日本民俗学会、国際浮世絵学会、日本風俗史学会

5 資料の収集と利用

(1) 資料の収集

一次資料

受贈

- ・倉内純子 様 「縄文土器(加曾利EⅡ式)」 8点①
- ・三木一郎 様 「おもちゃの話」ほか書籍 13点
- ・渋谷文雄 様 「出征の日の丸」ほか 7点②

購入

- ・絵図「御鹿狩之図」(作者不明) 1点③
- ・絵図「諸士方高名手柄 小金山麓之地里」(作者不明) 1点④
- ・北条氏康書状ほか「西原文書」 10点⑤

二次資料

- 受贈図書 20冊 図書交換機関等 282ヶ所
- 購入図書 98冊 購入逐次刊行物 37タイトル
- 交換図書 582冊 受贈及び交換逐次刊行物 226タイトル



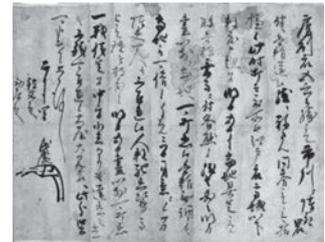
①縄文土器(加曾利EⅡ式)



②出征の日の丸



④小金山麓之地里



⑤北条氏康書状



③御鹿狩之図

(2) 博物館資料の貸出

	貸出期間	借用者	利用形態	目的	貸出資料・点数
1	H27.4.1~28.3.31	鳥取二十世紀梨記念館	資料貸出	鳥取二十世紀梨記念館で展示するため	二十世紀梨原木 1点
2	H27.9.19~11.1	板橋区立郷土資料館	資料貸出	特別展「武蔵千葉氏」展で展示するため	本土寺過去帳 上巻(複製) 1点
3	H27.10.6~12.22	千葉県立中央博物館 大多喜城分館	資料貸出	企画展「甲冑とその時代~甲冑の様式を中心に~」展で展示するため	小金城跡出土 鉄小札ほか 17点
4	H28.2.4~4.23	鎌ヶ谷市郷土資料館	資料貸出	企画展「交差するまちへ~鎌ヶ谷交通発展史~」展で展示するため	人馬参詣図 1点

(3) 博物館資料の特別利用 (平成27年4月1日～28年3月31日)

No	利用日	利用者	利用形態	目的	利用資料・点数
1	平成27年4月23日	株式会社 ジュピター テレコム	写真利用	「ちばドキッ」(番組名)で放映するため	ガンダーラ資料 火神堂内毒龍調伏 写真 他2点
2	5月8日	千葉地方法務局訟務部 門	調査・ 写真撮影	訴訟準備に必要な資料収集	和紙図(松戸市根木内字宿畑の字限図 及びその綴り)
3	5月12日	千葉県文書館	写真撮影	ミニ企画展において写真パネルでの展 示、及びリーフレットへの掲載のため	虚無僧実物大模型 他1点
4	5月28日・29日・ 6月2日	株式会社 いき出版	調査・ 写真撮影	書籍「松戸市の昭和」への写真資料掲載に 関わる熟覧・撮影	旧市史編纂担当収集写真一括 他一括2点
5	6月1日～ 平成29年3月31日	千葉県文書館	写真利用	県史「千葉県の歴史」(全51巻)の内容紹介 用パネルの画像として使用する	本土寺過去帳(天正本) 他1点
6	7月1日	ゆうかり町会	写真利用	ゆうかり町会広報誌に掲載するため	武蔵野線新松戸駅開業式典 昭和48年3 月30日撮影
7	7月3日	有限会社 勾玉工房 M o g i	調査	『松戸市八ヶ崎遺跡第19地点発掘調査報 告書』を執筆するため	大橋馬乗場遺跡出土土器 他1点
8	7月8日	松戸市立博物館友の会	写真利用	博物館友の会古文書部会、テキスト作成 のため	博物館資料(歴史資料) 旧大熊家文書 「安政四年 御用留」
9	7月10日	千葉県教育庁教育振興 部文化財課	調査・ 写真撮影	千葉県指定文化財(歴史資料)の指定候補 として熟覧し、調査するため	寛政七年小金原御鹿狩絵図
10	7月29日	千葉県立中央博物館	調査	平成27年度大多喜城分館企画展「甲冑と その時代」の資料調査のため	馬屋敷遺跡出土小札(複製含む) 他79点
11	8月1日	東京新聞社	写真利用・ 写真撮影	新聞記事に掲載するため	松戸覚之助(写真) 他2点
12	8月10日	八街郷土史研究会	図版転載	会誌「郷土八街 臨時号 史料翻刻 小 金牧御鹿狩」の挿図として使用	小金原御鹿狩の図
13	8月18日	千葉日報社松戸支局	写真利用	新聞記事に掲載するため	陸軍工兵学校正門前を行進する兵士 他2点
14	8月22日	松戸よみうり新聞社	写真撮影	松戸商工会議所会報誌「ブリッジ」平成27 年9月号の特集「江戸川の水運」(仮題)に 掲載するため	松戸の河岸復原模型
15	8月29日	個人	写真利用	教師向けの模擬授業の資料として使用	周延画「将軍家於小金原御鹿狩之図」 他2点
16	8月30日	個人	調査・ 写真撮影	研究会の発表のため	子和清水遺跡出土 木葉形尖頭器
17	9月1日～ 平成30年8月31日	株式会社 文芸社	図版転載	『古代から中世の江戸・浅草を探る』の出 版	『特別展 川の道 江戸川』p.44 図4 他1点
18	9月2日	株式会社 エドケンハ ウス	写真利用	株式会社エドケンハウス社内報に掲載す るため	陸軍工兵学校校門 他4点
19	9月3日	株式会社 フォト・パ ブリッシング	写真利用	アルファベータブックス社発行「東武野 田線・新京成電鉄 街と駅の一世紀」に掲 載するため	根本踏切より新京成乗り入口を望む(上 本郷・松戸間工事)写真 他14点
20	9月4日	千葉地方法務局	調査・ 写真撮影	筆界特定手続に必要な資料収集のため	松戸市大字栗ヶ沢全図 他2点
21	9月10日	千葉日報社松戸支局	写真利用	新聞記事(千葉日報)に掲載するため	稔台小学校起工式 他2点
22	10月5日	株式会社 アマゾンラ テルナ	写真利用	NHK「T O K Y O ディープ!」#19松戸 で画像を使用するため	昭和30年の水戸街道 他2点
23	10月15日	春日部市教育委員会	図面参照	粕壁宿ペーパークラフト模型、作成のた め	松戸宿本陣図面
24	10月23日	千葉県立中央博物館	写真利用	平成27年度大多喜城分館企画展「甲冑と その時代」の広報及び図録掲載のため	小金城跡出土 鉄小札写真 他17点
25	10月25日	積石塚・渡来人研究会	調査	調査研究のため	行人台遺跡出土資料(6号住居出土 鑄造 鉄斧・多孔式甑) 他1点
26	10月27日	株式会社 いき出版	写真利用	書籍「松戸市の昭和」への写真資料掲載の ため	旧松戸市史編纂担当収集写真 他166点
27	10月29日	株式会社 いき出版	写真利用	書籍「松戸市の昭和」への写真資料掲載の ため	旧松戸市史編纂担当収集写真 他6点
28	11月1日	松戸駅周辺商業協同組 合	調査・ 写真利用	「まちあるき」資料作成のため	中央大学 学生寮 他1点
29	11月4日	本町大通り商店会	ビデオ複 製	映像に祖父母がうつっていること、往時 の商店会の盛況を観て残す為	「常磐線電化」ビデオ 他2点
30	11月10日～ 平成28年11月13日	江東区深川江戸資料館	写真利用	企画展「長屋～住まいと暮らし」で作成す るパネルで利用	常盤平団地ダイニングキッチン 他1点
31	11月11日	株式会社 イースト・ エンタテインメント	ビデオ撮 影	T X「たけしのニッポンのミカタ!」11月 20日放送 団地の説明として使用	常盤平団地2DK 1式
32	11月22日	常盤平中学校P T A 50 周年委員	写真利用	常盤平中学校50周年記念誌掲載のため	常盤平駅前(昭和35年頃) 他17点

33	12月22日	小金「歴史観光資源を生かした街づくり」専門部会	写真利用	『小金ロマンルートガイドマニュアル』に掲載するため	幸田貝塚出土土器(深鉢13)写真 他2点
34	12月25日	有限会社 勾玉工房 Mogi	写真利用	松戸市八ヶ崎遺跡第19地点発掘調査報告書に掲載するため	大橋馬乗場遺跡出土土器写真 他2点
35	12月25日	株式会社 小学館出版局文化事業室	写真利用	『日本美術全集 第1巻 日本美術創世記(縄文・弥生・古墳時代)』に掲載するため	幸田貝塚出土土器写真
36	平成28年1月17日	鎌ヶ谷市郷土資料館	写真利用	平成27年度企画展「交差するまちへー鎌ヶ谷交通発展史ー」でのパネル展示及び図録への掲載のため	六実駅構内写真 他2点
37	1月29日	蓮田市教育委員会	調査	黒浜貝塚発掘調査報告書執筆のため	幸田貝塚(10次)出土貝類10箱
38	2月3日～6月6日	出雲弥生の森博物館	写真利用	出雲弥生の森博物館ギャラリー展示「西谷古墓と長者原廃寺」におけるパネル展示および展示解説書に掲載するため	坂花遺跡出土「厨厨」銘骨蔵器(蔵骨器)(松戸市指定文化財)
39	2月10日	松戸よみうり新聞社	写真利用	松戸商工会議所会報誌「ブリッジ」平成28年2月号の企画「発見!松戸の美」に掲載するため	貝の花貝塚「注口土器」 他3点
40	3月13日	株式会社 ロングテイル	写真利用	テレビ東京「空き屋DIY」で放送するため	小金原団地入居風景

(4) 資料の燻蒸等

[収蔵庫燻蒸]

殺虫・殺卵・殺菌を目的とする燻蒸を行った。

期 間:平成27年6月22日(月)～6月29日(月)

対 象:第1収蔵庫～第4収蔵庫

委 託 先:関東港業(株)

使用薬剤:酸化プロピレン(商品名アルプ)

[燻蒸庫による資料燻蒸]

殺虫・殺卵・殺菌を目的とする燻蒸を行った。

期間と対象:

第1回 平成27年9月1日(火)～9月3日(木) 民俗資料・歴史資料・考古資料

第2回 平成27年11月19日(木)～11月21日(土) 民俗資料・考古資料・図書資料

第3回 平成28年2月16日(火)～2月18日(木) 歴史資料・考古資料・図書・写真類

委 託 先:関東港業(株)

使用薬剤:酸化プロピレン(商品名アルプ)

[学習資料展資料燻蒸]

殺虫・殺卵を目的とする燻蒸を行った。

期 間:平成27年4月6日(月)～4月21日(火)

対 象:民俗資料等

委 託 先:関東港業(株)

使用薬剤:二酸化炭素(炭酸ガス)

[野外展示・復元竪穴住居]

殺虫を目的として防除作業を行った。

期 間:平成27年6月22日(月)～6月29日(月)

対 象:復元竪穴住居3棟

委 託 先:関東港業(株)

使用薬剤:フェノトリン炭酸製剤(商品名ミラクンS)

6 平成27年度常設展示・企画展示等アンケート結果

■ 調査方法と設問内容

調査は、アンケート用紙をそれぞれ、エントランスホール(常設展示アンケート)と企画展示室前ロビー(企画展示等アンケート)に置き、記入を利用者の任意に任せた調査票自己記入式で行った。

各アンケートに共通する設問は、回答者の性別、年齢、住所、来館回数、博物館に関する情報をどうやって入手したか、交通手段、職業、行動グループ、展示についての印象・感想である。

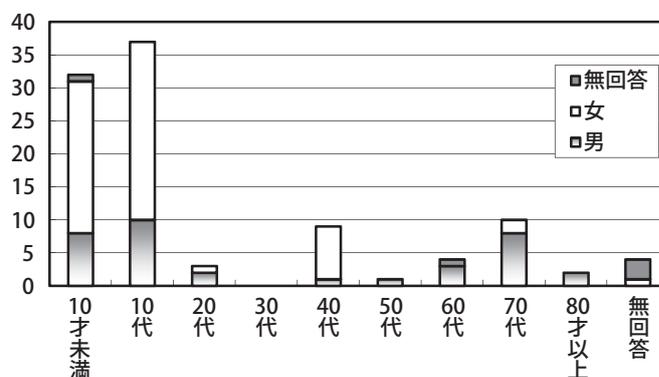
以下に、回答者の傾向を端的に示した“性別”と“年齢”のクロス集計、及び“来館回数”“満足度”という計3項目の結果をとりあげる。

(1) 平成27年度常設展示

- 観覧者数 17,593人
- アンケート有効回答者数 102件(回答率 0.58%)
- 調査期間 平成27年4月1日(水)～平成28年3月31日(木)

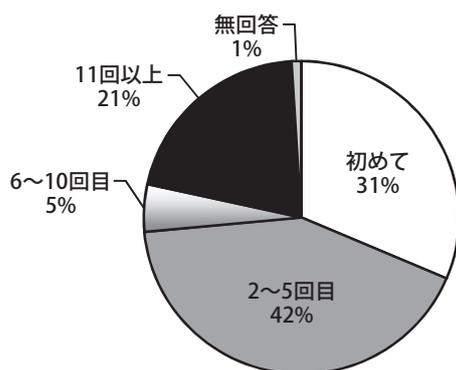
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	8	23	1	32
10代	10	27	0	37
20代	2	1	0	3
30代	0	0	0	0
40代	1	8	0	9
50代	1	0	0	1
60代	3	0	1	4
70代	8	2	0	10
80才以上	2	0	0	2
無回答	0	1	3	4
計	35	62	5	102



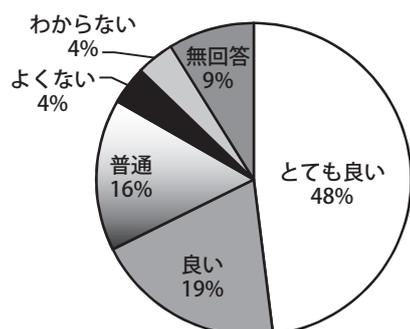
■ 来館回数

初めて	32
2～5回目	43
6～10回目	5
11回以上	21
無回答	1
計	102



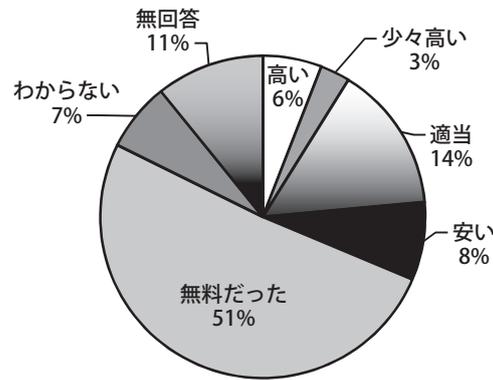
■ 回答者の満足度

とても良い	49
良い	20
普通	16
よくない	4
わからない	4
無回答	9
計	102



■ 観覧料について

高い	6
少々高い	3
適当	15
安い	8
無料だった	52
わからない	7
無回答	11
計	102

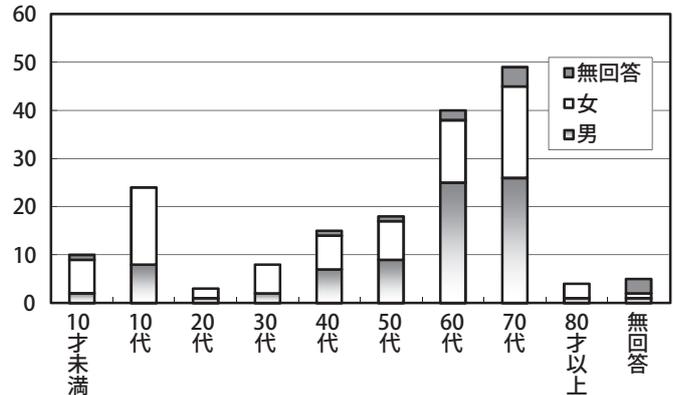


(2) 館蔵資料展「シルクロードとガンダーラ」

- 観覧者数 4,796人
- アンケート有効回答者数 176件(回答率 3.7%)
- 調査期間 平成27年4月25日(土)～平成27年6月7日(日)

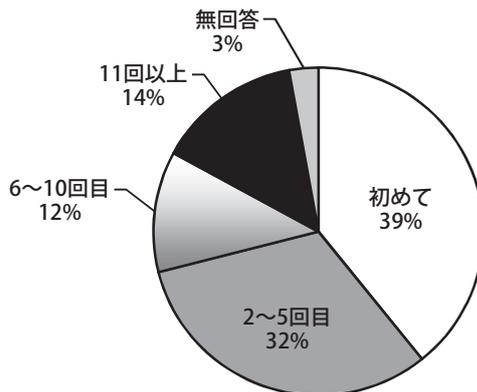
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	2	7	1	10
10代	8	16	0	24
20代	1	2	0	3
30代	2	6	0	8
40代	7	7	1	15
50代	9	8	1	18
60代	25	13	2	40
70代	26	19	4	49
80才以上	1	3	0	4
無回答	1	1	3	5
計	82	82	12	176



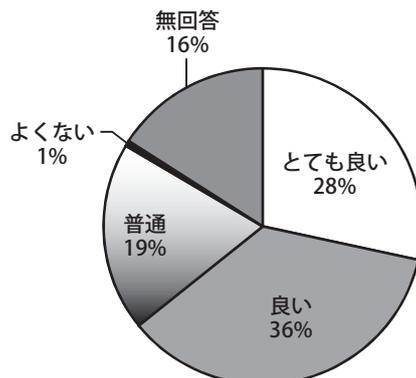
■ 来館回数

初めて	69
2～5回目	56
6～10回目	21
11回以上	25
無回答	5
計	176



■ 回答者の満足度

とても良い	50
良い	63
普通	34
よくない	1
わからない	0
無回答	28
計	176

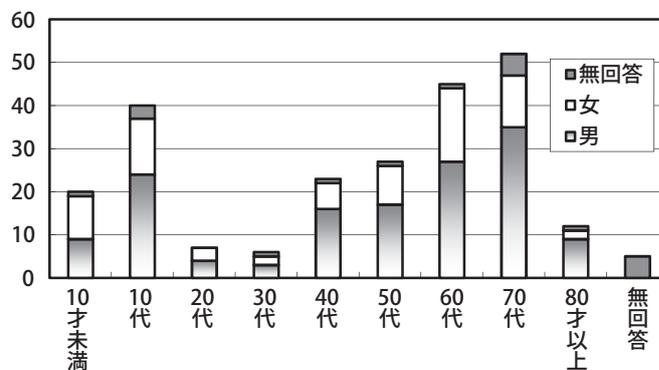


(3) 館蔵資料展「松戸市平和祈念展」

- 観覧者数 3,797人
- アンケート有効回答者数 237件(回答率 6.2%)
- 調査期間 平成27年7月18日(土)～平成27年9月23日(水)

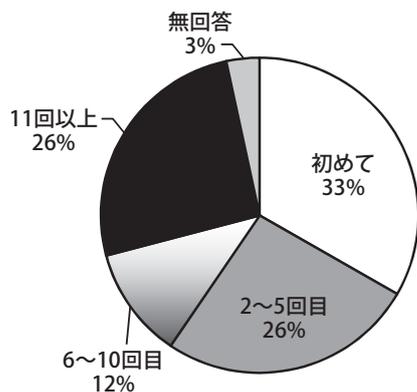
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	9	10	1	20
10代	24	13	3	40
20代	4	3	0	7
30代	3	2	1	6
40代	16	6	1	23
50代	17	9	1	27
60代	27	17	1	45
70代	35	12	5	52
80才以上	9	2	1	12
無回答	0	0	5	5
計	144	74	19	237



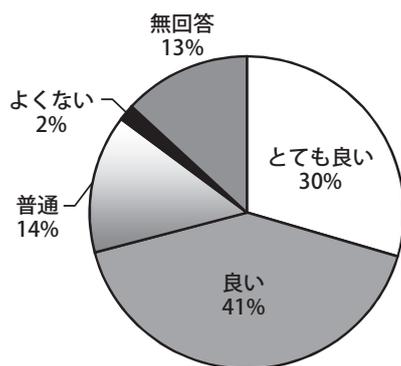
■ 来館回数

初めて	79
2～5回目	62
6～10回目	27
11回以上	61
無回答	8
計	237



■ 回答者の満足度

とても良い	70
良い	98
普通	34
よくない	4
わからない	0
無回答	31
計	237

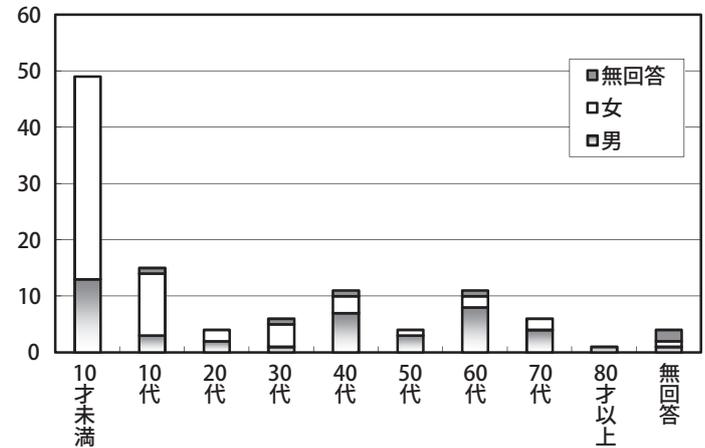


(4) 学習資料展「昔の暮らし探検」

- 観覧者数 10,446人
- アンケート有効回答者数 111件(回答率 1.1%)
- 調査期間 平成28年1月13日(水)～平成28年3月27日(日)

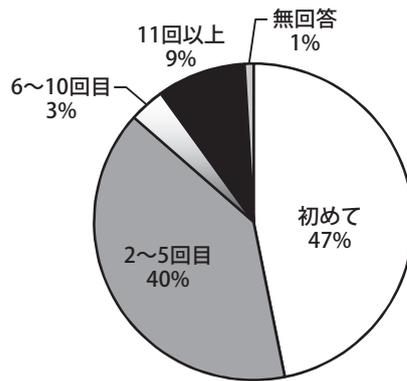
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	13	36	0	49
10代	3	11	1	15
20代	2	2	0	4
30代	1	4	1	6
40代	7	3	1	11
50代	3	1	0	4
60代	8	2	1	11
70代	4	2	0	6
80才以上	1		0	1
無回答	1	1	2	4
計	43	62	6	111



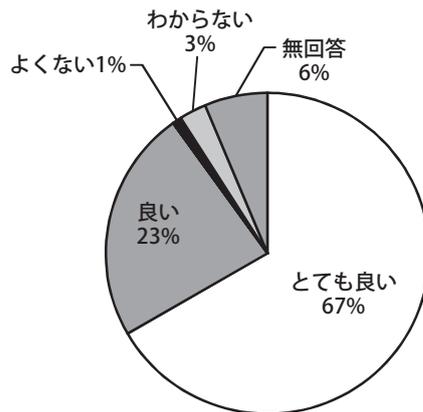
■ 来館回数

初めて	52
2～5回目	44
6～10回目	4
11回以上	10
無回答	1
計	111



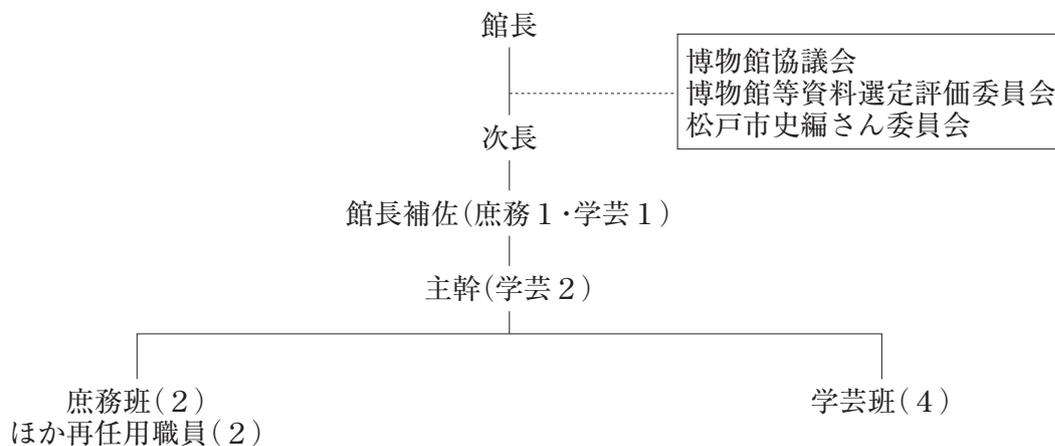
■ 回答者の満足度

とても良い	74
良い	26
普通	0
よくない	1
わからない	3
無回答	7
計	111



IV 組織と運営

1 組織



2 歳出予算

(単位 千円)

事業 科目	予算額	内 訳				
		管 理 運 営	展 示 事 業	学 習 支 援	資 料 収 集	市 史 編さん
報酬	372	204	0	0	100	68
賃金	16,590	0	2,533	7,782	5,235	1,040
報償	695	0	65	400	230	0
旅費	97	0	0	0	97	0
需用	33,566	26,694	4,582	513	1,757	20
役務	1,129	559	360	63	147	0
委託	69,585	57,176	5,366	716	6,327	0
使用	12,634	10,316	1,448	767	0	103
工事	0	0	0	0	0	0
原材	44	44	0	0	0	0
備品	2,063	435	275	103	1,250	0
負担	96	0	0	0	96	0
計	136,871	95,428	14,629	10,344	15,239	1,231

3 事務事業

事務事業名	事務事業の主な内容
博物館管理運営事業	施設の維持管理を目的としており、館利用者が安全で快適な環境で学習できるよう施設を整備する。また、博物館協議会において、適正な事業方針を審議する。
博物館展示事業	総合展示・主題展示・野外展示・映像展示で構成し、市民に郷土の歴史と文化への理解を深めてもらう。また、年4回程度、企画展・資料展・学習資料展を実施する。
博物館学習支援事業	歴史講座・体験教室・講演会等の開催、デジタル情報の提供、学校教育との連携などを図り、松戸の歴史文化等にかかわる最新情報を様々な媒体を通して提供する。
博物館歴史資産収集調査事業	松戸を中心とする歴史・文化・自然史等に関する資料の収集・保存及び調査研究を行い、市民の共有の資産として後世に伝える。
市史編さん事業	市民に郷土の歴史を知ってもらい、郷土に対する誇りを育てるため、松戸市史の編さんを行う。平成26年度に松戸市史上巻の改訂版を刊行した。

4 各種委員会等

(1) 博物館協議会

委員名簿

(平成28年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
1号委員 学校教育関係者	田中 祥隆	松戸市立旭町小学校校長
	佐藤 祐介	松戸市立六実小学校教諭
2号委員 社会教育関係者	山口恵理子	松戸青年会議所理事長
3号委員 家庭教育の向上に 資する活動を行う者	関根 恵子	松戸市PTA連絡協議会顧問
4号委員 学識経験者	安蒜 政雄	明治大学教授(考古学)
	濱島 正士	国立歴史民俗博物館名誉教授(建築史学)
	佐藤 孝之	東京大学教授(近世史)
	小島 孝夫	成城大学教授(民俗学)

任期2年 平成29年9月30日まで

第1回協議会

平成27年6月6日(土)

会場：博物館会議室

- 議題：(1) 平成27年度博物館事業概要の説明
(2) 館蔵資料展「シルクロードとガンダ
ーラ」内覧と評価
(3) その他

第2回協議会

平成27年11月21日(土)

会場：博物館会議室

- 議題：(1) 会長・副会長互選
(2) 平成27年度博物館事業上半期の報告
(3) 平成28年度博物館事業計画について
(4) 「よみがえる画家 板倉鼎・須美子展」
内覧と評価
(5) その他

(2) 博物館等資料選定評価委員会

委員名簿

(平成28年3月31日現在)

氏名	専門	役職等
安蒜 政雄	考古	明治大学教授
金子 隆一	写真	武蔵野美術大学非常勤講師
久保田昌希	歴史	駒澤大学副学長
佐野 賢治	民俗	神奈川大学教授
松尾美恵子	歴史	学習院女子大学名誉教授

任期2年 平成29年3月31日まで

委員会

平成28年2月27日(土)

会場：博物館会議室

- 議題：(1) 西原文書の購入適否に関する事項
(2) 西原文書の購入価格の適否に関する事項

(3) 松戸市史編さん委員会

委員名簿

(平成28年3月31日現在)

氏名	役職等
小山田義夫	流通経済大学名誉教授(中世史)
大井 弘好	前(財)新松戸郷土資料館館長(郷土史・民俗学)
中野 達哉	駒澤大学文学部教授(近世史)
関根 孝夫	東海大学名誉教授(考古学)
望月 幹夫	松戸市立博物館館長(考古学)

任期2年 平成28年6月30日まで

5 博物館利用者数の統計

利用者総計 78,148人

常設展示月別観覧者数、並びに平成27年度企画・特別展示等観覧者数は以下の通りである。

常設展示観覧者数（平成27年4月1日～平成28年3月31日現在）

月	開館日数(日)	有料観覧者数(人)						無料観覧者数(人)						観覧者総数(人)	
		個人		団体		共通		有料観覧者計	学習活動	身体障害者	70歳以上	中学生以下	視察等		無料観覧者計
		一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生								
4	25	266	15	3	28	-	-	312	360	22	100	223	622	1,327	1,639
5	26	391	39	21	0	-	-	451	648	30	98	227	301	1,304	1,755
6	19	185	11	0	0	-	-	196	233	32	60	73	144	542	738
7	27	322	57	36	0	-	-	415	44	27	61	192	49	373	788
8	26	437	39	0	0	-	-	476	62	30	49	416	57	614	1,090
9	25	361	20	40	0	-	-	421	0	18	57	175	24	274	695
10	27	314	6	0	0	126	8	454	22	35	168	146	36	407	861
11	25	244	13	20	0	151	3	431	21	46	133	101	693	994	1,425
12	23	245	12	20	27	-	-	304	11	22	81	107	45	266	570
1	23	280	20	0	0	-	-	300	2,840	38	71	185	166	3,300	3,600
2	23	369	18	0	0	-	-	387	1,849	19	110	238	30	2,246	2,633
3	26	405	28	97	0	-	-	530	779	39	72	343	36	1,269	1,799
計	295	3,819	278	237	55	277	11	4,677	6,869	358	1,060	2,426	2,203	12,916	17,593

企画・特別展示等観覧者数

企画・特別展	開催期間	開館日数(日)	有料観覧者数(人)						無料観覧者数(人)						観覧者総数(人)	
			個人		団体		共通		有料観覧者計	学習活動	身体障害者	70歳以上	中学生以下	視察等		無料観覧者計
			一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生								
館蔵資料展「シルクロードとガンダーラ」	H27.4.25～ H27.6.7	37	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	4,796	4,796	
館蔵資料展「松戸市平和祈念展」	H27.7.18～ H27.9.23	59	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	3,797	3,797	
「よみがえる画家板倉鼎・須美子展」	H27.10.10～ H27.11.29	44	995	11	26	0	277	11	1,320	13	97	779	100	1,500	2,489	3,809
学習資料展「昔のくらし探検」	H28.1.13～ H28.3.27	62	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	10,446	10,446	
「松戸市展受賞者展」	H27.12.5～ H27.12.13	8	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	372	372	
※「松戸市展選抜展」	H27.4.28～ H27.5.24	23	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	(3,427)	(3,427)	
計		210	995	11	26	0	277	11	1,320	13	97	779	100	1,500	21,900	23,220

※特別展以外については、無料展示につき観覧者の内訳は把握していない。

※「松戸市展選抜展」の開館日数(23日)と観覧者数(3,427人)については、同時開催の資料展「シルクロードとガンダーラ」と重複するため合計に含めていない。

博物館無料ゾーン利用者

(下段総数単位：人)

博物館施設名	プレイルーム	映像展示	野外展示	合計
日数	295日	295日	295日	—
利用者総数	9,136	8,151	16,996	34,283

講座・講演会等参加者

3,052人

博物館利用者総計 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(単位：人)

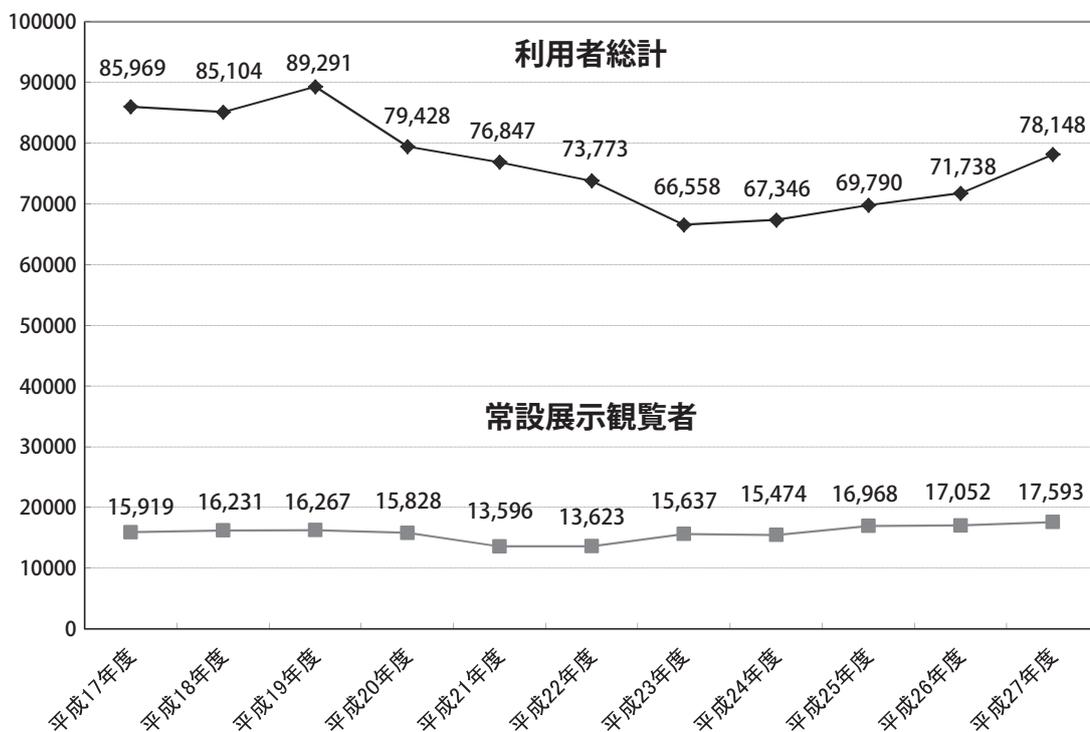
	平成27年度	平成26年度	前年度比較
常設展示観覧者数	17,593	17,052	541
企画・特別展示観覧者数	23,220	20,431	2,789
博物館無料ゾーン利用者	34,283	30,964	3,319
講座・講演会等参加者数	3,052	3,291	△239
利用者総計	78,148	71,738	6,410

博物館利用者総数の推移 (博物館施設利用者の推移は、下の表のとおりである。)

(単位：人)

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
利用者総数	85,969	85,104	89,291	79,428	76,847	73,773	66,558	67,346	69,790	71,738	78,148
常設展示観覧者数	15,919	16,231	16,267	15,828	13,596	13,623	15,637	15,474	16,968	17,052	17,593

博物館利用者総数の推移



6 来訪者(敬称略)

平成27年

- 7月10日 千葉県教育振興部文化財課職員、県文化財保護審議会委員 資料調査見学
- 8月4日 J:COM東葛・葛飾 取材
- 8月26日 三重県立博物館 視察
- 11月3日 テレビ東京 取材
- 11月7日 千葉県建築士会 常設展示視察
- 11月20日 千葉県総合企画部職員 「よみがえる画家 板倉鼎・須美子展」視察
- 12月3日 我孫子東高等学校見学
- 12月10日 水戸市立博物館ボランティア・職員見学

平成28年

- 2月6日 J:COM東葛・葛飾 取材
- 3月8日 埼玉県さいたま市岩槻区職員 視察
- 3月25日 PTA連絡協議会 見学

V 条例・規則

松戸市立博物館条例

(平成4年9月24日松戸市条例第28号)

(趣旨)

第1条 この条例は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(位置)

第2条 本市は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
松戸市立博物館	松戸市千駄堀671番地

(管理)

第3条 博物館は、松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 博物館に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(事業)

第5条 博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史、考古、民俗、自然史等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、フィルム等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (4) 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- (5) 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言及び指導を行うこと。
- (6) 他の博物館、美術館、文書館、図書館、学校その他学術又は文化に関する施設との相互協力に関すること。
- (7) その他教育委員会が必要と認める事業

(観覧料)

第6条 博物館に展示されている博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納入しなければならない。

- 2 教育委員会は、特に必要と認める場合においては、前項の観覧料を免除することができる。
- 3 既納の観覧料は、返還しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、返還

することができる。

(入館の制限及び退館)

第7条 教育委員会は、次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を禁止し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれのあるとき。
- (2) 博物館の施設、展示品等を損壊するおそれのあるとき。
- (3) その他博物館の管理上支障があるとき。

(博物館協議会)

第8条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定により、博物館に松戸市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員10名以内で組織し、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育関係者
- (2) 社会教育関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験者

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に規定するもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して8か月を越えない範囲内において教育委員会が規則で定める日から施行する。

(平成5年3月松戸市教育委員会規則第2号で、同5年4月29日から施行)

附 則(平成10年3月27日松戸市条例第11号)

この条例は平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年6月21日松戸市条例第23号)

この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成23年3月30日松戸市条例第11号)

この条例は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月29日松戸市条例第7号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表(第6条関係)

区 分		観覧料(1人1回につき)	
		個人	団体(20人以上)
常設展示	一般	300円	240円
	高校生・大学生	150円	100円
	中学生以下	無料	無料
企画・特別展示	次の各号に掲げる額を超えない範囲内において、その都度展示内容に応じ、教育委員会が定める。ただし、中学生以下の者に係る観覧料にあっては、無料とする。		
	(1)一般	1,200円	(共通観覧料については、1,440円)
	(2)高校生・大学生	600円	(共通観覧料については、700円)

備考

- 1 企画・特別展示とは、博物館において通常の展示品以外を展示する場合をいう。
- 2 共通観覧料とは、常設展示及び企画・特別展示を観覧することができる観覧料をいう。

松戸市立博物館管理運営規則

(平成5年3月26日松戸市教育委員会規則第3号)

(趣旨)

第1条 この規則は、松戸市立博物館条例(平成4年松戸市条例第28号。以下「条例」という。)第9条の規定により、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、博物館への入館時間は、午後4時30分までとする。

2 松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、必要と認めるときは、前項に規定する開館時間及び入館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、臨時に休館し、又は休館日を変更することができる。

- (1) 月曜日
- (2) 1月1日から4日まで及び12月28日から31日まで
- (3) 館内整理日(毎月第4金曜日とする。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「祝

日法による休日」という。)である場合は、この限りでない。

2 前項第1項の規定にかかわらず、同号に規定する日が祝日法による休日に当たるときは、その日後において、その日に最も近い祝日法による休日でない日を休館日とする。

(観覧券の交付)

第4条 条例第6条第1項の規定により、所定の観覧料を徴収したときは、観覧券(第1号様式)を交付するものとする。

(観覧料の免除等)

第5条 条例第6条第2項の規定により、観覧料を免除することができる場合は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 高校生及び高校生以下の者を引率する者が教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。
- (2) 博物館が開催する講演会、講習会、研究会等に参加する者が観覧するとき。
- (3) 市内に居住する身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護人が観覧するとき。
- (4) 市内に居住する70才以上の者が観覧するとき。
- (5) 県民の日を定める条例(昭和59年千葉県条例第3号)第2条に定める日に観覧するとき。
- (6) その他教育委員会が必要と認めるとき。

2 観覧料の免除を受けようとする者で前項第1号に該当するものは、あらかじめ博物館観覧料免除申請書(第2号様式)を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

(観覧料の返還)

第6条 条例第6条第3項ただし書の規定により、観覧料の返還を受けようとする者は、博物館観覧料返還申請書(第3号様式)を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

(資料の貸出し)

第7条 教育委員会は、次の各号に掲げる者に対し、博物館業務に支障がないと認めるときは、博物館で所蔵する資料を貸し出すことができる。

- (1) 国立博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項の規定による博物館及び同法第29条の規定による博物館に相当する施設の設置者
- (2) 前号に掲げる者のほか、教育委員会において特に認める者

2 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、博物館資料貸出申請書(第4号様式)を教育委

員会に提出し、博物館資料貸出許可書(第5号様式)の交付を受けなければならない。

- 3 博物館資料の貸出期間は、60日以内とする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを延長することができる。

(文献等の閲覧等)

第8条 教育委員会は、必要があると認めるときは、博物館で所蔵する資料のうち文書及び図書(以下「文献等」という。)の閲覧又は複写(文書については、マイクロフィルムに保存されているものに限る。)をさせることができる。

- 2 文献等を閲覧しようとする者は、博物館文献等閲覧許可申請書(第6号様式)を教育委員会に提出し、博物館文献等閲覧許可証(第7号様式)の交付を受けなければならない。

- 3 博物館文献等閲覧許可証の有効期間は、交付の日から1年とする。

- 4 文献等の複写を希望する者は、博物館文献等複写申請書(第8号様式)により教育委員会の許可を受けなければならない。

(閲覧又は複写の制限)

第9条 教育委員会は、次の各号に掲げる文献等の閲覧又は複写を許可しないものとする。

- (1) 未公開および未整理のもの
- (2) 保存に影響を及ぼすおそれがあると認められるもの
- (3) 寄託された文献等で寄託者の同意を得ていないもの
- (4) その他教育委員会が不相当と認めたもの

(入館者の遵守事項)

第10条 博物館の入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 施設、設備、展示資料等を汚損し、又は損傷しないこと。
- (2) 許可なく展示資料の写真撮影、模写等の行為を行わないこと。
- (3) 所定の場所以外において喫煙し、飲食し、又は火気を使用しないこと。
- (4) 無断で広告その他これに類するものを掲示又は配布しないこと。
- (5) 他人に危害を加え、又は迷惑となる行為をしないこと。
- (6) 前各号に定めるもののほか、教育委員会の指示に従うこと。

(所掌事務)

第11条 博物館の所掌事務は、別表のとおりとする。
(職務)

第12条 館長は、博物館の事務を掌理し、職員を指揮監督する。

- 2 次長は、館長を補佐し、所属の事務を統轄する。

- 3 館長補佐は、館長及び次長を補佐する。

- 4 その他の職にある者は、上司の命を受け、担当事務を処理する。

(博物館協議会の会長等)

第13条 条例第8条第1項に規定する博物館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(博物館協議会の会議等)

第14条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 協議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

- 3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

- 4 協議会は、特に必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

- 5 協議会の会議は、公開を原則とする。ただし、協議会において会議を公開しないと認めたときは、この限りでない。

- 6 協議会の庶務は、博物館において処理する。

- 7 前各項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

(委任)

第15条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成5年4月29日から施行する。

附 則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第9号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第10号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成7年3月2日松戸市教育委員会規則第5号)

この規則中、第5条第1項の改正規定は平成7年4月1日から、第11条に1号を加える改正規定は公布の日から施行する。

附 則(平成8年3月14日松戸市教育委員会規則第3号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成10年3月26日松戸市教育委員会規則第9号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年7月11日松戸市教育委員会規則第12号)

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成14年3月4日松戸市教育委員会規則第1号)
この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月31日松戸市教育委員会規則第8号)
この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月30日松戸市教育委員会規則第3号)
この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月30日松戸市教育委員会規則第4号)
この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年3月15日松戸市教育委員会規則第4号)
この規則は、平成25年4月1日から施行する。

別表(第11条関係)

- ・ 文書の收受、保存及び公印の管理に関する事。
- ・ 観覧料の徴収に関する事。
- ・ 予算、経理及び物品の管理に関する事。
- ・ 要覧及び年報の作成に関する事。
- ・ 財産の管理に関する事。
- ・ 施設及び設備の維持管理に関する事。
- ・ 博物館協議会に関する事。
- ・ 資料選定評価委員会に関する事。
- ・ 市史編さんに関する事。
- ・ 市史編さん委員会に関する事。
- ・ 関係団体との連絡調整に関する事。
- ・ 資料の収集、保存及び展示に関する事。
- ・ 資料の調査及び研究に関する事。
- ・ 資料に関する講座、講演会、研究会等の開催に関する事。
- ・ 資料に関する目録、解説書、図録、調査研究、報告書等の作成に関する事。
- ・ 資料に関する相談、情報提供に関する事。
- ・ 博物館資料に関する閲覧、貸出等についての許可に関する事。
- ・ 博物館資料の寄贈、寄託に関する事。
- ・ 他の博物館、図書館、学校等との連絡及び協力に関する事。
- ・ その他博物館の専門的事項に関する事。

第1号様式～第8号様式 省略

松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例

(平成26年12月25日松戸市条例第28号)

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、松戸市立博物館等資料選定評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、松戸市立博物館及び松戸市戸

定歴史館における歴史に関する資料(以下「歴史資料」という。)の収集を適正かつ円滑に行うため、松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 歴史資料の真がんに関する事項
- (2) 歴史資料の価格の適否に関する事項
- (3) 歴史資料の寄贈及び寄託の受入れ又は購入の適否に関する事項
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、学識経験を有する者その他教育委員会が必要と認める者のうちから教育委員会が委嘱する。

2 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第8条 委員会は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の専門的知識を有する者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成27年4月1日から施行する。(特別職の職員の給与及び費用弁償の支給に関する条例の一部改正)
- 2 特別職の職員の給与及び費用弁償の支給に関する条例(昭和31年松戸市条例第15号)の一部を次のように改正する。
別表2に次のように加える。

松戸市立博物館等資料選定評価委員会委員	日額 20,000円
---------------------	------------

※「松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱」については、「松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例」(平成26年12月25日松戸市条例第28号)として条例化されたことに伴い、平成27年3月31日付で廃止となった。

松戸市史編さん委員会条例

(昭和55年3月26日松戸市条例第3号)

(設置)

第1条 郷土をより深く理解することによって市民の愛郷心を振起させ、あわせて市勢発展の基礎資料となる松戸市史を編さんするために、松戸市史編さん委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、市長の諮問に応じ、松戸市史の編さんについて調査審議する。

(組織)

第3条 委員会は、5人の編さん委員で組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 市の職員

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、これを代理する。

(招集及び会議)

第6条 会議は、委員長が招集する。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、昭和55年4月1日から施行する。(松戸市誌編さん委員会条例の廃止)
- 2 松戸市誌編さん委員会条例(昭和28年松戸市条例第23号)は、廃止する。(松戸市役所部課設置条例の一部改正)
- 3 松戸市役所部課設置条例(昭和38年松戸市条例第3号)の一部を次のように改正する。
第2条総務部の項中「市誌編さん」を「市史編さん」に改める。

松戸市立博物館研究員設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の資料整備並びに学校教育及び社会教育における博物館の活用に関し、専門的な調査研究に資するため、博物館に研究員をおく。

(定数)

第2条 研究員の定数は、8人を超えない範囲内において、館長が定める。

(委嘱)

第3条 研究員は、博物館の業務に関し、学識経験を有する者のうちから、博物館館長が委嘱する。

(任期)

第4条 研究員の任期は、1年とする。ただし、年度中途に委嘱された研究員の任期は、当該年度末までとする。

(職務)

第5条 研究員は、次に掲げる職務に従事する。

- (1) 博物館の資料の収集、保管、展示等に関する専門的、技術的な調査研究
- (2) 学校教育及び社会教育における博物館の活用に関する専門的な調査研究
- (3) その他博物館の事業に関する専門的な調査研究

(会議)

第6条 館長は、研究員の職務の円滑な遂行を図るため、必要と認めるときは、研究員の会議を開催することができる。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、館長が定める。

附 則

この要綱は、平成5年12月1日から施行する。

松戸市立博物館資料取扱い及び特別利用に関する要綱

(目的)

第1条 この要綱は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)における博物館資料(以下「資料」という。)の寄贈又は寄託による受入れ、貸出し、借入れ及び調査又は研究のための特別利用に関し、必要な手続を定めるものとする。

(寄贈の申込み)

第2条 松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、資料の寄贈を受けるときは、寄贈の申込みをする者から資料寄贈申込書を徴するものとする。

(寄贈の承認)

第3条 教育委員会は、寄贈を受けることとなった資料を受領したときは、寄贈者に資料受領書を交付するものとする。

(寄託の申込み)

第4条 教育委員会は、資料の寄託を受けるときは、資料の寄託の申込みをする者から資料寄託申込書を徴するものとする。

(寄託資料の受託及び返還)

第5条 教育委員会は、寄託を受けることとなった資料を受領したときは、寄託者に資料受託証書を交付するものとする。

2 寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)の返還は、資料受託証書と引き替えに行うものとする。

(資料の一時預り)

第6条 教育委員会は、資料の寄贈又は寄託の申込みがあった場合において、資料の寄贈又は寄託の可否を決定するために必要と認めるときは、当該申込者に対し資料の一時預りを求めることができる。

2 教育委員会は、前項の場合において当該申込者が資料の一時預りを承諾したときは、資料と引きかえに資料一時預り証を交付するものとする。

(寄託期間)

第7条 寄託期間は、3年とする。

2 前項の寄託期間の起算日は、寄託を受けた日の属する年度の4月1日とする。

3 教育委員会は、寄託期間の更新をするときは、寄託者から新たに資料寄託申込書を徴するとともに、寄託者に新たに資料受託証書を交付するものとする。

(寄託期間内の返還)

第8条 教育委員会は、寄託期間満了前であっても、寄託者から寄託資料期間内返還申込書の提

出があったときは、寄託資料の返還に応ずるものとする。

(寄託資料の一時返還)

第9条 教育委員会は、寄託資料の一時返還をするときは、寄託期間中に寄託者から寄託資料一時返還申込書を徴するものとする。

2 一時返還の期間は、60日を限度とする。ただし、特別の事由がある場合は、その期間を延長することができる。

3 一時返還の期間中における寄託資料の管理については、教育委員会は、その責を負わない。

(寄託資料の所有者変更)

第10条 教育委員会は、寄託者が寄託資料の所有権を移転する場合においては、寄託者から寄託資料所有者変更届を徴するとともに、受託証書の返還を受けなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会は寄託者の死亡に伴い相続が発生したときは、相続により当該寄託資料の所有権を取得した者から、寄託資料所有変更届を徴するものとする。

(受託証書の再交付)

第11条 教育委員会は、前条の規定により寄託資料の所有者の変更が生じた場合は、受託証書の再交付を行うものとする。

2 教育委員会は、寄託者が受託証書を亡失、滅失又は破損した場合は、寄託者にこれらの事由を記載した書面によって受託証書の再交付を申請させるものとする。

(資料の館外貸出し)

第12条 資料の館外貸出しについては、松戸市博物館管理運営規則第7条に定めるもののほか、次条及び第14条の規定によるものとする。

(資料の館外貸出条件)

第13条 教育委員会は、資料の館外貸出しをしようとするときは、次の各号に掲げる条件を明示するものとする。

(1) 貸出しを受けた者(以下「借受人」という。)は、貸出しを受けた資料(以下「貸出資料」という。)を善良なる管理者の注意をもって管理すること。

(2) 貸出資料の取扱いは、学芸員又はこれと同等の資格を有すると認められる者が行うこと。

(3) 貸出し期間中に貸出資料の保管等のために要する費用は、全て借受人の負担とすること。

(4) 借受人は、貸出資料を貸出目的以外の用に供してはならない。

(5) 貸出資料を展示する場合は、原則としてケース内展示とし、松戸市立博物館所蔵の旨を

明示すること。

- (6) 借受人は、貸出資料滅失し、又はき損したときは、これによって生じた損害を賠償すること。
- (7) 借受人は、資料借用申込書に記載した事項を遵守すること。
- (8) 借受人において、貸出条件に違反する行為があるとき又は特別の事由が生じたときは、貸出期間中であっても貸出を取り消す場合があること及びこの場合において生じた損害については、教育委員会はその責を負わないものであること。
- (9) 博物館職員の指示に従うこと。
- (10) その他必要と認められる条件

(借用書の徴収)

第14条 教育委員会は、貸出資料と引き替えに借受人から資料借用書を徴するものとする。

(資料の借入れ)

第15条 教育委員会は、博物館における展示、研究等のために資料の借入れをするときは、借入れする資料(以下「借受資料」という。)の受領の際、資料預り証を資料の貸主に交付するものとする。

(借受資料の返還)

第16条 借受資料の返還は、資料預り証と引き替えに行うものとする。

(特別利用の申込み)

第17条 資料について、調査、写真撮影等の特別な利用(以下「特別利用」という。)をしようとする者は、資料特別利用申込書(寄託資料にあっては資料特別利用申込書及び所有者の承諾書)を教育委員会に提出して申込まなければならない。

(特別利用の承認)

第18条 教育委員会は、前条の申込みがあった場合において、資料の特別利用を承認したときは、当該申込者に資料特別利用承認書を交付するものとする。

(特別利用の条件)

第19条 教育委員会は、特別利用の承認をするときは、次の各号に掲げる条件を明示するものとする。

- (1) 資料の特別利用申込書に記載した目的以外の用に供してはならないこと。
- (2) 出版物等に掲載する場合は、松戸市立博物館所蔵の旨を明示すること。
- (3) 出版物等に掲載する場合は、博物館(寄託資料にあっては、博物館及びその所有者)に出版物等を寄贈すること。
- (4) 博物館職員の指示に従うこと。

(5) その他必要と認める条件

(申込書等の様式)

第20条 この要綱の施行に関し必要な申込書等の様式は、別表の定めるところによる。ただし、特に必要と認める場合は、これらの様式に準じたものをもって手続をすることができる。

(委任)

第21条 この要綱の実施に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成5年12月1日から施行する。
- 2 この要綱の施行前になされた資料の寄贈又は寄託による受入れ、貸出し、特別利用その他の手続については、この要綱の相当規定によりなされたものとみなす。

松戸市立博物館紀要投稿規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要(以下「紀要」という。)への投稿に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(資格)

第2条 紀要に投稿することができる者は、次の各号に定めるものとする。

- (1) 投稿時において松戸市立博物館の職員である者
- (2) 投稿時において松戸市立博物館の研究員である者
- (3) 過去において松戸市立博物館の職員であった者
- (4) 松戸市立博物館が投稿を依頼した者
- (5) その他松戸市教育委員会が適当と認めた者

(審査)

第3条 原稿の掲載の可否は、松戸市立博物館紀要査読規程(平成23年10月1日施行。以下「査読規程」という。)にもとづいて松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)で査読の上決定し、著者に通知するものとする。

(投稿区分と枚数)

第4条 紀要の投稿区分と枚数は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 論文 70枚以内(400字詰原稿用紙換算)
 - (2) 研究ノート 50枚以内(同上)
 - (3) 資料紹介 30枚以内(同上)
 - (4) その他 編集委員会の定めるところによる
- 2 前項の枚数には、本文、注、参考文献、図表を含めるものとする。

3 投稿する原稿は、未発表のものに限る(刊行予定のものは既発表とみなす)。

(投稿形式)

第5条 投稿の形式は、原則として電子文書によるものとし、電子メールの添付ファイルとして送信し、又は電子媒体を編集委員会事務局宛てに送付する方法によるものとする。併せて、電子文書とは別に、紙媒体に印字された原稿を一部送付する。

2 前項の規定にかかわらず、編集委員会が特に必要と認めたときは、紙媒体による投稿をすることができる。この場合における投稿部数は、4部とする。

3 前2項の原稿を投稿するときは、図1に示す投稿票を添付するものとする。

(締切)

第6条 投稿の締め切りは、毎年10月31日とする。

(校正)

第7条 原稿が受理された後の本文の書き直しは、校正(明らかな誤字脱字を訂正することをいう。)を除き、これを認めない。

2 前項に規定する校正には、松戸市立博物館紀要執筆要領(以下「執筆要領」という。)にもとづいて形式を訂正することを含む。

3 著者による校正は初校のみとし、再校以後は編集委員会事務局が行うものとする。

(別刷の取り扱い及び掲載誌の贈呈)

第8条 著者には著作が掲載された号の紀要を5部贈呈する。

2 別刷が必要なときは、投稿時に編集委員会事務局あて必要部数を通知するものとし、別刷の作成に必要な経費は著者が負担する。

(委任)

第9条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附則

この規定は、平成23年10月1日から施行する。

附則

この規程は、平成24年6月1日から施行する。

附則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

図1(用紙規格 J I S A 5)

投稿票

氏名	
タイトル	
投稿区分	
原稿枚数(400字詰 原稿用紙換算)	

松戸市立博物館紀要編集委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)の設置に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(所掌事務)

第2条 編集委員会は、次の各号に掲げる事項について調査審議するものとする。

(1) 松戸市立博物館紀要に投稿された原稿の掲載の可否に関すること。

(2) その他松戸市立博物館紀要の編集・発行に関し必要な事項

(構成)

第3条 編集委員会の委員は、学識経験を有する者及び関係機関の職員のうちから2名以上の者を松戸市立博物館長(以下「館長」という。)が指名する。

2 編集委員会の委員長は、館長をもってあてる。

(会議)

第4条 編集委員会の会議は委員長が招集し、自ら議長となる。

(意見の聴取)

第5条 編集委員会は、会議に編集委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第6条 編集委員会の庶務は、松戸市立博物館において処理する。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

松戸市立博物館紀要査読規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要(以下「紀要」という。)に投稿された原稿の査読に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(査読)

第2条 松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)は、紀要に投稿された論文、研究ノート及び資料紹介(以下「論文等」という。)について査読を行い、その結果を投稿者に通知するものとする。

2 編集委員会は、必要に応じて編集委員以外の者に査読を依頼することができる。

(査読方法)

第3条 編集委員会は、査読対象の論文等に関し、別表1に掲げる事項について評価を行う。

(判定)

第4条 編集委員会は、前条の評価に基づいて別表2に掲げる4段階の判定を行う。

2 前項の判定は、編集委員の過半数の賛成によって行うものとする。

(委任)

第5条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

別表2

1 掲載可(再審査不要)

- (1) このままで掲載可
- (2) 指摘箇所訂正後に可

2 修正後再審査

- (1) 書き直し後に再審査
- (2) 投稿区分の変更を必要とする

3 掲載否

- (1) 既発表部分が多い
- (2) 「松戸市立博物館紀要」として不適當
- (3) 内容不可

4 判定不能

- (1) 一部他分野の専門家の判断を必要とする
- (2) その他

別表1

1 形式

- (1) 表題・副題の適切さ
- (2) 章・節等の全体構成の適切さ
- (3) 原稿枚数の適切さ
- (4) 投稿区分の妥当性

2 内容

- (1) 素材及び資料の妥当性、提示方法
- (2) 論理展開の明確さ
- (3) 内容の正確さ、完成度
- (4) 結論の提示方法

3 図表等

- (1) 図表の必要性
- (2) 図表の作成、説明の適切さ

4 文献

- (1) 参照文献の妥当性、引用の適切さ

5 表現

- (1) 文章の表現力、読みやすさ

職員名簿（平成27年4月1日現在）

館長（非常勤）	望月 幹夫
次長	林 総太郎
館長補佐	秋谷 昌子
館長補佐・学芸員	山田 尚彦 〈※平成27年4月1日昇任〉
主事	坪内 知世
主事	永井 勇輔
主幹・学芸員	中山 文人
主幹・学芸員	青木 俊也 〈※平成27年4月1日昇任〉
主査・学芸員	大森 隆志
主査・学芸員	柏木 一朗
主任主事・学芸員	小林 孝秀
主任主事・学芸員	富澤 達三
再任用	鈴木 和喜
再任用	中村 実

人事異動

〈平成27年4月1日〉（カッコ内は転出後・転入前の所属）

転出：主査	直井ふき子（建築保全課）
転入：主事	永井 勇輔（生活支援一課）
新任：主任主事	富澤 達三（新規採用）

松戸市立博物館年報 第23号

発行日 平成28年8月31日
編集発行 松戸市立博物館
松戸市千駄堀671番地（〒270-2252）
電話 047-384-8181（代表）
http://www.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/
印刷 株式会社 弘文社

Printed in Japan, 2016©MATSUDO MUSEUM



松戸市立博物館
MATSUDO MUSEUM